

令和2年度
事業報告書

学校法人 大阪青山学園

目 次

I	法人の概要	1
i	所在地	1
ii	設置する学校	1
iii	大学、短期大学及び幼稚園の入学定員、収容定員及び在籍者数	1
iv	役員・教職員数	2
II	事業の概要	2
i	はじめに	2
ii	法人事務局	2
1	理事会・評議員会	2
2	将来構想委員会	3
3	大学改革委員会	3
4	総務部	3
iii	大阪青山大学 健康科学部	4
1	健康栄養学科	4
2	子ども教育学科	8
3	看護学科	10
iv	大阪青山大学短期大学部	13
1	調理製菓学科	13
v	附置・附属機関	17
1	大阪青山歴史文学博物館	17
2	図書館（図書室・メディアセンター）	19
3	体育館	21
4	共通教育センター	24
5	情報教育センター	25
6	リテラシーサポートセンター	29
vi	委員会	32
1	大学 自己点検評価委員会	32
2	FD推進委員会	32
3	SD推進委員会	33
4	危機管理委員会	35
vii	事務部門等	35
1	総務部	35
2	教務部	36
3	保育・教職支援室	37
4	学生支援センター	40
5	進路支援センター	46
6	入試部	50
viii	青山幼稚園	52

令和2年度事業報告書

I 法人の概要

i 所在地

◎学校法人大阪青山学園

大阪府箕面市新稲2丁目11番1号

◎大阪青山大学

大阪府箕面市新稲2丁目11番1号

◎大阪青山大学短期大学部

大阪府箕面市新稲2丁目11番1号

◎青山幼稚園

大阪府吹田市青山台4丁目5番

ii 設置する学校

1 大阪青山大学

健康科学部 健康栄養学科
子ども教育学科
看護学科

2 大阪青山大学短期大学部 (令和3年10月 廃止申請予定)

調理製菓学科
調理コース
製菓コース

3 青山幼稚園

iii 大学、短期大学及び幼稚園の入学定員、収容定員及び在籍者数

(入学定員・収容定員：令和2年4月1日現在)

(在籍者数：令和2年5月1日現在)

区分		入学定員	収容定員	在籍者数	備考
大学	健康科学部健康栄養学科	80	320	276	平成17年4月設置
	健康科学部子ども教育学科	80	340	321	平成20年4月設置(平成25年度名称変更)
	健康科学部看護学科	80	320	334	平成27年4月設置
	計	240	980	931	
短期 大学	調理製菓学科		60	34	令和2年4月学生募集停止
	計		60	34	
合計		240	1,040	965	
幼稚園			※590	358	※認可定員

iv 役員・教職員数

1 役員数（令和2年5月1日現在）

- ・理事 8名
- ・監事 2名
- ・評議員 17名

2 教職員数（令和2年5月1日現在）

	教授	准教授	専任講師	助教	助手	教諭	事務職員
法人	—	—	—	—	—	—	1
大学	29	14	15	11	5	—	36
短期大学	2	4	0	0	0	—	2
幼稚園	—	—	—	—	—	24	1

※幼稚園の教諭数には、園長を含む。

II 事業の概要

i はじめに

私学を取り巻く環境は、少子化、学生・保護者のニーズの多様化、経済構造の転換など社会環境の急激な変化とともに厳しさを増している。特に令和2年度は、4月当初から新型コロナウイルス感染拡大への対策という新たな難題に直面し、学園全体でその対応に苦慮した一年であった。従来、本学は実習・演習等を重視しており、対面授業を前提にしている授業が休講となり、また、分散登校や遠隔授業へのシフトを余儀なくされ、情報インフラの整備や講義室の消毒など急遽対応せざるを得ない状況が続いた。そうした中、学びの質保証と学生の学修機会の確保のため可能な限り対面授業を維持し、遠隔授業を効果的に取り入れて、実習等への影響をできる限り抑える工夫をしてきた。

このような環境の中で、本学は安定した経営基盤と確固たる教育の質保証により「入学したい大学」として有り続ける必要があり、さらに短期大学部の廃止による学園経営状況などを踏まえ、新学部や新学科の設置など新たな将来計画を検討するとともに、将来のあるべき姿を示すべく「第3次中期計画（令和3年度～令和7年度）」を策定した。

令和2年度は、第2次中期計画の最終年度として、教職員が努力して、ガバナンス、教学、財政面での一定の結果を残すことができた。残念ながら、収支面など、多くの課題が残ったが、令和3年度からの第3次中期計画の中でさらに一層取り組みを進めていく。学部・学科及び各部署の事業については、以下のとおり推進した。

ii 法人事務局

1 理事会・評議員会

令和2年4月に制定した「大阪青山学園ガバナンス・コード」に基づき、理事会・評議員会の運営の適正化と透明性を確保した。

理事会は、本学園の経営が急激な社会環境の変化に対応できるよう、経営機能と管理運営機能の充実を図るため毎月一回の開催を基本とし、常任理事会を通しての学園、設置校の情報を早期に着実に求め、活発な運営に資することとする。理事会と常

任理事会等の役割を定めた関係規程に基づき、適切に理事会運営を行った。

評議員会は、理事長が理事会の審議に先立って意見を聴取し、また理事会の決定を報告して意見を求めることにより、評議員会の意見を経営に反映した。

令和2年度においては、第3次中期計画の制定、補正予算及び令和3年度予算方針、新型コロナウイルス特別寄付金募集、令和3年度予算案、就業規則関係規程の制定・改正、新規資産運用、短期大学部廃止に伴う諸規程の改廃及び各種委員会の統廃合に係る規程整備等の重要事項について審議し、意思決定が行われた結果、各事業を迅速に実行することができた。

2 将来構想委員会

法人事務局に設置した経営企画室が事務を所掌し、第3次中期計画（令和3年度～令和7年度）策定に向けて委員会を適宜開催した。

第3次中期計画は、入学定員の確保、ステークホルダーの満足度の向上、キャリア支援体制の充実及び財務内容の改善を主要目標として、今後5年間に着実に達成すべき課題を検討、精選して策定した。

3 大学改革委員会

短期大学部廃止後の学園組織のあり方を検討することとし、将来構想を踏まえた学部・学科の組織を検討した。

子ども教育学科の改組では、学部化をめざし学部設置準備室を設置して検討を進め、令和4年4月1日の「子ども教育学部」設置に向けて届出に必要な申請書類を作成した。他学科については、学科改組及び大学院設置等を含め検討を継続している。

また、各種委員会の統廃合を行い、令和3年4月1日施行で、大学運営会議、大学改革委員会、学科長会議及びIR委員会を廃止し、大学運営の重要事項を総括的に審議する場として「大学運営推進会議」を設置した。研究関連委員会においては、研究推進委員会、利益相反マネジメント委員会及び研究倫理委員会を廃止し、「研究委員会」を設置した。その他、入試委員会、学生生活委員会についても、関連する委員会等を廃止し機能を各委員会に集約した。また、新たに情報システム委員会を設置した。

これらの委員会の統廃合により、効率的な運営を図るとともに、教学マネジメントなど、学長を中心としたガバナンス体制の整備を行った。

4 総務部

(1) 組織・制度の適正化

法人組織を見直し、令和2年4月から法人事務局に「経営企画室」を設置し、また大学の組織である「学習支援室」を「リテラシーサポートセンター」に改組した。

さらに組織規程、各種委員会規程、事務分掌規程、文書取扱規程、就業規則等の改正及び内部監査規程（各令和3年4月1日施行）を制定した。

(2) 校舎・設備等の整備

中長期設備計画に基づき、令和2年度の実行計画を理事会承認の上で策定した。令和2年度は本計画に基づき、学園内の教育環境の改善、さらに学生・教職員の快適な環境を提供すべく以下の設備更新等を実施した。

- ・本館屋上防水の漏水対策工事
- ・2号館801大講義室の改修工事（空調更新、床・ブラインド更新・電動カーテン改修）
- ・2号館屋上外壁の大学名称設置工事
- ・北摂体育館の改修工事（耐震対策天井、屋上防水）
- ・青山幼稚園の厨房施設・設備の改修工事
- ・校舎、設備等の老朽化に対応した電気設備及び空調設備の計画的な改修等

(3) 外部資金の獲得の活性化

科学研究費補助金や研究助成金など競争的資金等の外部資金の獲得支援を行い12件（代表7件、分担5件）総額48,395千円（令和元年度比22,055千円増）の科学研究費補助金を獲得した。

(4) 寄附金募集活動の活性化

「教育振興資金」として、ホームページを活用した広報活動等を積極的に行うとともに税額控除制度の適用について周知を図り、同窓会員、大学関係者及び企業等から広く募金を求めた。

令和2年度においては、学生の学び継続に向けた施策を一層充実させるべく「新型コロナウイルス特別寄附金」を募り、卒業生、一般、企業及び学園関係者から、167件総額43,017千円の寄附が寄せられた。

寄附金により、学習支援金（1人1万円）を全学生に支給するとともに、コロナ禍の影響で経済的に学びの継続が困難となっている学生103名に修学特別支援金（1人15万円）を支給した。また、遠隔授業に係るICT機器の充実を図った。

iii 大阪青山大学

健康科学部

1 健康栄養学科

(1) 管理栄養士国家試験対策の強化

第35回国家試験合格率は58.8%（13期生51名受験中、合格者30名）、既卒者の合格率は20.0%（30名受験中、合格者6名）と、以下の取組みにもかかわらず厳しい結果となった。

① 在学生への支援

管理栄養士国家試験の受験者数及び合格率の向上を目指し、学科教職員全員できめ細やかな支援を行った。4年次に国家試験対策における学生カルテを作成し、個々人の学修状況の把握に努めた。国家試験対策講座として教員による講義

や過去問題集の配布、自習時間における個別対応を実施した。

② 卒業生への支援（卒後支援）

管理栄養士国家試験対策に関する情報提供をはじめ、教材の郵送、対策講座や模擬試験への参加勧奨、管理栄養士国家試験受験に係る書類送付等の支援を行った。

③ 国家試験対策室の強化

学科教職員で組織し、国家試験対策の強化を図った。外部講師を招き、試験対策の技術面に関して指導を行った。模擬試験は月1回以上実施し、学生の学修状況の把握を行った。

(2) 「キャリアデザイン」科目の開講

「キャリアデザイン」科目の開講を検討した。大学生として初歩的なキャリア教育が必要とされている。現在開講している「管理栄養士入門」は1年次生におけるキャリア教育の導入をして位置付けていくとともに、2年次生には3コースに分かれて、コース特別活動として、管理栄養士に求められる資質・能力について理解を深められるよう、さまざまな分野で活躍する管理栄養士を招き、講義を行った。コース特別活動を通じて、管理栄養士としての意識を向上に繋がるキャリア支援をした。3年次生からは卒業研究を通じて継続的なキャリア教育の実施を検討した。

(3) 就職・進学支援

進路支援センターとミーティングを実施し、学生の就職活動の状況や内定状況等を把握し、学生への支援体制を整えた。また、就職活動を行っていない学生に事情を聴き、就職希望でありながら行動していない学生については進路支援センターへの相談を促した。進学支援としては、学生各自の希望に合わせて主に近畿圏にある大学院の情報提供を行っている。就職内定率は98.2%（就職希望者56名中内定者55名）であった。

現1年次生から、4コース制として、学科の特色を可視化するとともに、管理栄養士の業務を理解しやすくするために「医療栄養コース」、「食育・栄養教育コース」「フードマネジメントコース」及び「健康スポーツ栄養コース」として支援する予定である。

(4) 入学前教育の実施

化学・生物の通信課題を実施した。令和2年度も費用は個人負担とし、36名の学生が参加した。入学前教育は、高等学校において、化学、生物を履修していない学生にとっては不可欠であり、初年次教育につながる教育を検討した。

(5) 学修支援の強化

基礎学力の底上げとして、初年次教育「化学・生物」の補講を行った。対象者としては、基礎学力テストの成績に応じて、約半数の学生にこれらの科目とともに

に「実用数学」を受講させた。なお、教育効果を上げるため、入学前教育と初年次教育との一貫性について検討した。

(6) 自習室の増設及び使用時間の延長

大学での学生相互の自主学習や情報交換は、学生の学習に対する意識向上に関わっている。学科事務室及び助教の研究室の利用を有効化させ、研修室も利用時間が延長できるよう改善している。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、利用に制限を付けたが、学生の居場所づくりの在り方等を検討した。

(7) 臨地実習の実施

臨地実習は、学内で修得する知識・技術を栄養管理の実践の場で実習・演習し、理論と実践を結びつけて理解することを狙いとして行われる必修科目である。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため実習が中止となり、リモート実習や学内実施等への変更があった。しかし、3年次前期に事前指導を実施し、給食経営管理分野は令和2年8月～10月に主に大阪府内の事業所の給食施設において、公衆栄養分野は令和2年8月に学内で大阪府内の保健所・保健センターとオンラインにおいて、臨床栄養分野は令和2年12月～令和3年3月に大阪府内の病院を中心に実施した。給食経営管理分野の実習後には報告会を行った。臨床栄養分野の一部は、新型コロナウイルス感染拡大のため令和3年度に実施の予定である。

(8) 保護者懇談会の実施

令和2年7月12日（土）に本学において保護者会及び個人面談を実施した。学科懇談会は27家族38名の参加があり、個人面談は12家族18名について実施した。

(9) 地域連携の取組み

① 卒業研究等による連携

近隣の幼稚園・小学校・医療機関・福祉施設などと連携した食育活動を現地に赴き一部実施した。

② 箕面市立病院医療・看護フェア

令和2年5月上旬に開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

③ だしぼん酢

箕面市の特産「実生ゆず」を使用した「だしぼん酢」が、箕面市、企業、大学の連携で商品化された。

④ ヴィクトリアサンドイッチケーキ

苺ジャムの代わりに、箕面市の特産「実生ゆず」に置き換えたオリジナル製品を開発した。

(10) 実験・実習環境の整備

① 実習室の整備

(特殊栄養実習室・給食経営管理実習室・308調理実習室・臨床栄養室)

実習室の整備として、調理器具や食器(まな板、タイマー、ガステーブル)、台下冷蔵庫、血糖値測定器を購入した。両面冷蔵庫、冷蔵庫、コールドテーブルを修繕した。

② 実験室の整備(理化学実験室・学生実験室・生物科学実験室)

実験室の整備として、マイクロプレートリーダー、自動解析装置を購入した。

(11) 学外研修の実施

① 3年次生(14期生)の1泊研修の実施

新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

② 3年次生(14期生)の洋食テーブルマナーの実施

新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

③ 4年次生(13期生)の和食テーブルマナーの実施

新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。代替として、お米の食べ比べ、箸、だしぼん酢とだしパックセットを提供した。

(12) 資格支援

① 栄養士免許申請に関する支援

栄養士免許申請に関する支援を行い、4年次生54名が取得した。

② 栄養教諭課程履修に関する支援

4年次生3名、3年次生6名について、栄養教諭免許取得に係る支援を行った。

③ フードスペシャリスト認定試験の実施及び資格取得支援

令和2年12月20日(日)に3年次生7名、4年次生1名が受験し、全員合格した。4年次生14名が資格申請を行った。

④ フードサイエンティスト資格取得支援

資格取得に係る講演「ポリフェノールの構造と機能」は新型コロナウイルス感染拡大のためオンデマンドにて実施した。4年次生2名が資格申請を行った。

⑤ 健康運動実践指導者資格取得支援

4年次生9名が受験し、7名合格した。合格者全員が資格申請を行った。

⑥ 全国栄養士養成施設協会栄養士実力認定試験の実施

令和2年12月13日(日)に3年次生53名が受験した。

⑦ NR・サプリメントアドバイザー認定試験の実施

令和2年12月6日(日)に9名が受験し、1名合格した。

(13) 学科事務室の業務の精査及び整理

① 学生対応

学生が抱えている国家試験対策や実習・実験、学生生活などの疑問点、悩み等について、クラス担任や担当教員と連携し対応した。

② 業務改善

教員・学生が利用しやすいように環境づくりを行った。また、授業等で使用する教科書や国家試験対策の参考資料を厳選し、整理整頓した。

2 子ども教育学科

(1) 学科の教育理念・目標の明確化と内容（カリキュラム）の充実と再構築

令和2年度は、幼稚園教諭の再課程認定を行うとともに、令和4年度からの学部化に伴うカリキュラムの一部見直しと整理を行った。これにより、保育者・教員養成に必要な知識・技能の修得に関するカリキュラム体系がより適正化された。

(2) 学科教育と学生指導の充実

1) 初年次教育について

令和元年度に見直した初年次教育のうち、「キャリアデザイン」についてはゼミ形式を導入し、学科全教員による少人数制教育を実現させた。これにより、学生の個別課題を担任とゼミ担当教員が共有しながらの連携・支援が可能となった。

新入生歓迎行事については、新型コロナウイルス感染拡大のため止むを得ず未実施となったが、学科全教員とピアリーダーが関与する学科独自の入学前教育の導入によって、入学前からの新入生同士のコミュニティを形成することができた。しかしながら、早期からの新入生のコミュニティ形成に関しては、後の人間関係の纏れの要因ともなり得るため入学前教育の在り方については、引続き課題検討が必要である。

2) 2年次生以降の教育と学生指導の充実

例年同様、担任制度を活用しながら特別時間にて個人面談を実施し、学生生活及び進路支援等への対応を行った。そこから浮かび上がった支援上の課題については学科内で情報共有し、適切な個別指導や支援になるよう努めた。また、就職支援については、子ども教育学科と保育・教職支援室及び、進路支援センターとの相対的独自性をふまえた支援強化に努めた。

(3) 保育・教育実習及び就職指導體制の充実

保育・教育実習は養成プログラムのなかで重要な位置を占めるため、全教員による実習指導體制の強化に努めた。また、これまで同様、GPAを用いながら実習指導を行いつつ、GPA以外の観点からも個別支援を行った。

就職支援については、担任と保育・教職支援室との連携のもと、新着求人情報を適宜学生に開示しながら、個別の就職活動を促した。

〈令和2年度の教員採用試験合格者数〉

- ・大阪府：1名
- ・大阪府豊能地区：3名（既卒生）
- ・大阪市：4名（うち、既卒生：3名）
- ・広島県：1名
- ・兵庫県：1名（既卒生）
- ・京都市（保育士）：1名

なお、令和元年度からの教員免許法の改正に伴う大学外の関係機関との「実習合同委員会」については、令和元年度に引続き、新型コロナウイルス感染拡大により開催はできなかった。

(4) 実験科目や実技関連科目などの基盤整備

短期大学（幼児教育・保育学科）閉鎖後の音楽室及び図工室の整備については、経年劣化した一部の楽器を処分することはできたが、各種教室の統廃合については未着手のままとなっている。また、小学校教員養成においてはICTを活用した指導者養成のための教職演習室の設置が必携となるため、令和3年度、シアタールームの使用変更を検討する。

(5) 学生の自習環境の整備

現在の学科学生が日常的に利用できる自習室は4号館6階の研修室のみとなっている。採用試験を目前に控えた4年次生の使用頻度が高い現状にあるが、早期から試験対策に臨む他学年のための自習環境や、採用試験に求められる、面接や模擬保育・授業のための自習環境の整備については不十分であるため、学科内で検討しながらさらなる自習環境の整備に努める。

(6) 子育て支援室のさらなる充実と地域への開放

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度は閉室した。

(7) 公開講座への主体的関与と新たな開講

学科教員の専門性を活かし、箕面市メイプル財団からの依頼を受け、ベートーベン生誕250年コンサートを実施した。その他の公開講座に関しては企画・実施することができなかった。

(8) 定員充足と入学試験のあり方

1) 中途退学者の抑制と総合型選抜（AO方式）と特別推薦入試

年度を重ねるごとに、不本意入学・生活習慣の問題から、入学直後に退学を選択する学生が増加傾向にあるため、子ども教育学科では以下のような対応を行った。

- ・担任を中心とした、進路に迷いが生じている学生への支援
- ・単位取得状況及び学生生活が芳しくない学生に対する早期面談の実施

- ・保護者への連絡・面談
- ・資格取得が困難な学生への早期からの進路支援
- ・学科全教員によるゼミナール形式での初年次教育「キャリアデザイン」と入学前教育の実施

2) 入学試験について

保育・教育現場での活躍が期待できる、音楽系技能の備わった学生のための入試形態を導入・実施した。

3) 広報戦略のあり方

新型コロナウイルス感染拡大のため、入試部との連携を元にした卒業生の進路については各高校に報告することはできなかった。

オープンキャンパス参加者の出願率を上げるため、学科学生スタッフの選出と育成に努めた。これにより、参加者（保護者含む）に対して、学生による大学生活及び将来展望への見通し等、情報伝達がし易くなった。その他、子ども教育学科への入学意欲が高まるような広報戦略を入試部と連携して、大学案内の内容の工夫を試みた。

4) 高大接続のあり方

各高校からの依頼により、保育・教育者を志す高校生に対し、本学教員の専門性を発揮した出張授業を実施したが、新型コロナウイルス感染拡大のため、例年よりも回数は減少している。

高校から大学生活の移行が円滑に行えるよう、学科独自の入学前教育を実施した。

(9) 保護者との連携の強化

例年同様、保護者懇談会を開催し、保護者の意見を集約しながら学科の学生教育に努めた。保護者懇談会以外の場面でも、電話連絡や三者面談などを必要に応じて実施し、学生の学修上・生活上の個別課題の改善に努めた。

(10) 卒業生との交流について

新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施することができなかった。卒業生と在学生の交流は、在学生のキャリア教育に還元されるため、交流の在り方とネットワークづくりについては、今後も引き続き検討していく。

(11) その他

担任業務と各部署業務の役割分担については整理できなかったが、幼稚園教諭再課程審査については教員人事の適正化を図ることができた。学部化以降の適切な人事計画については令和3年度に引継ぐ。

3 看護学科

(1) 看護師・保健師国家試験対策プログラム作成と支援

1) 看護師国家試験対策講座、模擬試験

4年間の国家試験対策プログラムを作成し、計画的に国家試験合格の支援をした。その内容は、昨年同様に外部講師の招聘と5回の模擬試験の実施に加えて専門基礎教員による支援の強化である。しかし、Ⅲ期生は国家試験に向けて自らの学習への取り組みが遅れたこと及び新型コロナウイルス感染拡大の影響から、国家試験強化対策が計画通りに進まなかった。その結果、新卒者の看護師国家試験合格率は、90.0%と令和元年度より低下した。既卒者に対しての支援は、既卒者との連絡が円滑に行えず、令和元年度より合格率が低下した。

新2年生、3年生及び4年生に対して現時点での学習の取り組みが消極的であることを鑑み、3月末に新2年生及び3年生に対して、専任基礎教員による国家試験対策を2コマずつ実施するとともに新4年生には外部講師による講義を4コマ実施した。

2) 保健師国家試験対策講座、模擬試験

保健師課程の学生8名には、上記対策に付加し、保健師国家試験対策講座及び模試を実施した。その結果、合格率は昨年同様100%であった。

(2) 学習支援対策

看護学科において「生物学」は、解剖生理学・病理病態学・疾病治療論へと続く、大切な基礎科目に位置づけられることから、令和2年度も令和元年同様に、アウトソーシングを利用し、該当科目の補講を行う予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により「生物学」の学力テストは実施したが、その結果を基に補講するまでには至らなかった。

なお、基礎学力の向上を図るために、令和2年度から推薦入試合格者に対し、アウトソーシングを利用し、入学前教育を実施していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、その結果を平常の授業に活かすことができなかった。

(3) 就職支援体制の設計と支援

就職試験対策として、進路支援センターの協力のもと、エントリーシートの記載方法、面接時の対応について実施した。令和2年度の第一志望の就職試験合格率は、令和元年度より低下し、数名の学生は、いくつかの施設を受験し合格に至るといった現象が生じたが、最終的には、就職率は100%という結果であった。

進路支援センターが企画、実施している各種セミナーは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施ができなかった。代替として1年生に対しては「大阪青山ゼミナール」の演習時に業者に依頼し、動画配信による聴講に切替えた。2年生には、新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、令和3年度の実習前に対面による実施を計画している。

一方、従前より実施していた就職合同説明会については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2年度は、実施に至らなかった。この代替として、実習施設に現状の説明文を発送するとともに、施設のパンフレットを本学に郵送してもらうこ

ととした。

(4) チューター個別面談の実施

7月の「保護者懇談会」開催時には、保護者の希望に基づき、チューターとの面談を実施した。特に学業成績が不振な学生の保護者には、懇談会への出席を促して学生への教育支援体制の一助とした。

(5) 学生への学習などの支援

令和2年度からチューター制度だけでなく、1学年に担任・副担任制度を導入し、より細やかな学習及び生活支援ができる体制とした。その結果、タイムリーに学生個々の問題・課題に対応できるようになった。

(6) 臨地実習の実施

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により1年生及び2年生の臨地実習は、全て学内実習に切替えた。また、3年生の領域実習、4年生の在宅看護学実習と統合実習も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、臨地での実習期間を短縮し、代替として学内実習に切替えた。学内実習の内容は、可能な限り臨地実習に近い状況を設定し実施した。具体的には、模擬患者の教職員への依頼、シミュレーション機材の活用による演習などを実施した。

学生の学習態度及び取組みは、概ね評価が高かった。しかし、国家試験対策として、臨地実習の経験が活かされにくいという問題については、今後検討していく必要があると考える。

なお、今後の課題としては、4年間の臨地実習での学習効果を評価し、基礎看護学実習から3年次領域実習へ、さらに4年次の実習へと繋げていくための改善点を検討していきたい。

(7) 日本の文化、芸術、伝統芸能に対する理解を深める教育

看護学科は本学の教育理念に基づき、学生が日本の文化に対する理解を深めるカリキュラム構成としている。学生は、歌舞伎や文楽などを鑑賞することにより、日本の文化、伝統芸能に触れる機会を得ている。令和2年度においても、引続き芸術鑑賞を実施し、「本物に触れる教育」の実践を継続した。その結果、学生達からの高評価を得ている。

(8) 学術活動

1) 学術講演会

学生の看護の心を育て、視野を広げるため、学術講演会を開催することを例年通り計画をしていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2年度は実施するには至らなかった。

2) 教師力の向上

FD活動の重要性が言われている。看護学科では、令和2年度の学科内FD活動は、新型コロナウイルスの影響により実施時期を当初の計画より延期したため、1回の実施に留まった。その内容などは、以下の通りである。

テーマ：オンライン授業入門

開催日時：令和3年3月11日（木）15：00～17：00

講師：根岸千悠特任助教（大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部）

参加者：26名（参加率 81.3%）

終了後参加者にアンケートを実施した結果、講義時期・講義時間において適切とした者の割合が高く、加えて満足度も90%と高評価であった。この要因として講義中のグループワークの導入やテーマがタイムリーであったことが考えられる。

(9) 学生募集への取組み

看護大学の増加に伴い、学生確保に向けての競合が予想される。そこで、国家試験合格率を鑑み、よりよい学生を確保するために、本学の魅力を内外にアピールし、学生の学習満足度が高まるように、オープンキャンパスを通してアナウンスを実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年度はオープンキャンパスの中止、参加者の人数制限と計画通りに実施できなかった。

(10) 学習環境の整備

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により遠隔授業の導入が始まった。学生だけでなく教員側も試行錯誤の連続で、十分な学習効果が得られなかったと考える。今一度大学全体としての効果的な遠隔授業のあり方を検討していく。

(11) 他大学との交流

令和2年度も昨年同様、日本看護系協議会及び日本私立看護系大学協会に入会し、会員校との情報交換・親睦を図っている。加えて令和2年度は「大阪府下私学看護系大学連絡情報交換会」に参加し、新型コロナウイルス感染拡大が続く中での実習をはじめ教育の現状について、月1回の間隔で情報交換を行った。その結果、他大学の状況について把握でき、問題点の共有及び解決策の方向性を見出すことに繋がった。

iv 大阪青山大学短期大学部

令和2年度は、令和3年3月での短期大学部の廃止に向けた作業を進めつつ、新型コロナウイルス感染拡大の影響により活動が大きく制約される中、以下の事業を実施した。

1 調理製菓学科

(1) 教育理念・目標の明確化

学科カリキュラム理念として「調理・製菓の技と感性を磨き、即戦力となる「食」のスペシャリストを育てるカリキュラム」を掲げ、基礎的な知識と技術を徹底的に習得させるとともに即戦力となる能力を身に付けるための実践的な授業を展開した。

(2) 学外研修・集中講義関係

1) 2年次テーブルマナー研修

新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。

2) 国内1泊研修旅行の実施

新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。

(3) 資格関係

1) フードスペシャリスト認定試験

食に関する幅広い知識を身につけ、食に関する他分野での活躍にいかすために資格取得を目指し、実施した。

実施日：12月13日（水）

結果：受験者6名 合格者1名

(4) カリキュラム

1) 日本の伝統と文化の科目を重視（茶道、書道）

専門職として習得し役に立つ科目として、茶道、書道を重視し、学生にも資格や将来に向けて役立つ授業を実施した。

2) 卒業研究

学科の集大成である卒業研究は、2年次の必修科目として実施した。食に関するテーマに添って自発的・創造的に研究を進めることを目的とし、担当教員指導のもと作品展示と卒業研究発表会を実施し、卒業研究制作物（卒業研究レシピ集）を作成した。

(5) 学生生活

1) イベント活動による学生生活充実度の向上（希望者対象）

イベントを通じて学生同士のコミュニケーションによる協調性、団結力を養うことを目的として、年間を通じたイベントプロジェクト「OZ(オズ)」の実施を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。

2) 特別時間による学修フォローアップ

① 基礎学力の定着化（リテラシーサポートセンターとの連携）

② 面談（学生動向、相談他）

③ 個人に合わせた目標設定とその見直し

④ 指導（ノート作成・技術習得・卒業研究）

⑤ 定期試験対策

⑥ 各種資格試験対策

⑦ 就職活動指導（進路支援センターとの連携）

⑧ 学生生活における不安の早期発見とその解消

⑨ 計画的な履修指導と学生便覧の理解

⑩ アンケート

3) 技術習得不足の学生に対するフォローアップ

卒業まで技術習得達成目標に到達しない可能性のある学生に対しては、実習室の空いている時間帯や長期休業期間中を利用し、徹底指導するなどの方策を駆使し、学生全員が基準レベルまで技術水準が到達するよう指導した。

4) 就職支援

進路支援センターと教員がさらなる協力体制を強化し、全員が就職できるよう就職活動を支援し、月1回、進路支援センターと情報共有を実施した。

(6) 退学者抑止策

1) 情報の共有

出席回数・取得単位の不足・経済問題など担任及び学科全体、各担当部署と連絡を密にとり情報を共有する事で問題のある学生を早期に発見し、早期に働きかけることで退学、除籍を最小限にとどめるよう努めた。

2) 欠席回数の把握

各科目担当教員宛に欠席連絡があり、担任教員が把握できないケースもあるため、3回以上の欠席者については、必ず担当教員に連絡するようルール化した。

3) カウンセラーの活用

精神的な不安や障害などを持つ学生もおり、教員が精神面で追い詰めるような対応をすることがないようにカウンセラー対応するなど適切な対応を行った。

4) 保護者との連携

3回以上の欠席者に対しては保護者への連絡を学科より行った。
成績不振や留年の可能性が有る学生の保護者への連絡や面談を行い早期対応するよう努めた。

5) 学生に対する相談環境の整備

教員などに相談しやすい環境づくり（早期発見）を心掛けた。

(7) その他

1) 保護者懇談会の実施

教育後援会総会の実施に併せて保護者懇談会を実施した。学生の学修状況及び就職説明会を懇談会で説明した。

2) 調理・製菓コンテスト参加の啓蒙

入賞を目指した取組みからチャレンジ精神の形成と創造性に富んだ思考を養うことを目的に、各種コンテストへの参加を学生に促したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、参加希望者はなかった。

3) 地域活動活性化

地域連携課との協力体制を強化し、包括協定を締結している箕面市・池田市・川西市を中心とした活動の活性化を図り、地域に根差した大学としての認知度を上げることが目指したが、新型コロナウイルス感染拡大のため各種イベントが中止となった。

4) 園児食育活動の推進

食育活動の一環として平野幼稚園年長児を対象とした「西洋料理マナー講習」を企画した。園児に料理を食べる際のルールを伝えることとともに活動に参加した学生にとって食育教育の在り方についての一考察となることを期待したが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。

5) 既卒者とのネットワーク形成

SNS などを通じて既卒者の現況を把握し、ネットワークを形成することで、既卒者の支援を行った。また、既卒者の活躍を外部発信することによりコースの活性化に繋げた。既卒者の情報をもとに在校生に対して安心して斡旋できる就職先のリスト作成を行った。

6) 既卒者へのフォローアップウィーク設定（ホームカミングデイ）

既卒者が今更、現場で聞けない技術や知識またはそれぞれの職場での悩みに対してフォローアップを行った。随時対応は行ったが、既卒者ホームカミングウィークを設定し、既卒者の迎え入れを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。

7) 調理・製菓公開授業（地域連携）

公開授業は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。

2 調理コース

(1) 調理技術クラス・カフェ調理クラス

1) 調理技術クラス・カフェ調理クラスの明確化

「調理技術クラス」

技術習得の徹底はもとより、各食材の下処理から料理を仕上げるまでをこなすことができ、豊富な調理知識を養った人材を育成した。

「カフェ調理クラス」

基本的な調理法をしっかりと理解・習得したうえで、社会の食の流行を捉え、料理のジャンルにとらわれることなく、バリエーション豊かな料理の創出ができる人材を育成した。

(2) 資格関係

1) 大阪府ふぐ処理登録者講習 資格試験

大阪府ふぐ処理登録証の資格取得を目指し、学内での事前講習の徹底。調理コース設立以来の合格率 100%を引続き維持した。

対 象：調理製菓学科 調理コース 2年次

実施日：11月12日（木）（全国一斉）

結 果：受験者 17名 合格者 17名

2) 技術考査資格試験

6年以上の実務経験を得たうえで専門調理師を目指す際に筆記試験免除となるための資格取得のために試験対策を実施し、100%の合格率となった。

対 象：調理製菓学科 調理コース 2年次

実施日：1月21日（木）

結 果：受験者数17名 合格者数17名

(3) 学生生活

1) 在学生保護者へのレストラン開放

保護者に学生が実習に真剣に取り組む姿勢と成長した姿を実感してもらい、また学生が料理に想いを込めることを体験し、合わせて教員と保護者とのコミュニケーションの場とするために企画したが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。

2) 卒業予定学生の保護者のレストラン招待（兼保護者会）

レストラン最終営業日（自作メニュー）に保護者を招待し、保護者会を兼ねたイベントを企画したが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。

3 製菓コース

(1) 資格関係

1) 製菓衛生師国家試験受験

在学中に製菓衛生師免許の取得を支援。

・製菓衛生師国家試験対策の実施

製菓コース2年次全員が、在学中に製菓衛生師免許の取得を目指し、国家試験対策を各科目について実施した。国家試験対策としては講義と模擬試験を実施し、受験者全員の合格を目指したが、以下の結果となった。

受験者：2年次全員（製菓衛生師養成課程を履修した者）

実施日：11月14日（土）

結 果：受験者数15名 合格者数13名

(2) 大量調理と販売

製菓、製パンの基礎知識を生かした専門的な実習として、2年次から学内販売と大量調理を実施した。グループに分かれて学内で試作研究し大量販売を行った。内容はメニューの考案から大量調理の仕込み、そして、原価計算、ラッピング、販売サービスまでを実際の店舗販売のように模擬授業を行った。

・パン、焼き菓子、ケーキの販売

実施日：前期

場 所：製菓実習前

実施回数：3回

v 附置・附属機関

1 大阪青山歴史文学博物館

所蔵資料（原本、写真・画像）の貸出、博物館を会場とする研修会や見学会・講座、また主任学芸員の出張講座等の催しを開催した。

(1) 主な資料貸出

【原本】

- 申請日 令和2年6月9日 『明智光秀書状等書状集』1巻、他3件
目的 福知山光秀ミュージアム特別展『明智光秀と丹波福知山』に展示
- 申請日 令和2年7月30日 『明智光秀他書状集』1巻、他5件
目的 亀岡市文化資料館第35回特別展『丹波決戦と本能寺の変』に展示
- 申請日 令和2年8月14日 『観弥勒上生兜率天経賛卷下残卷』（朱点白点本）
（重要文化財）1巻
目的 九州国立博物館特別展『奈良・中宮寺の国宝』に展示

上記の他、『明智光秀書状（天正3年9月16日付）』等、戦国時代資料計7件をNHK大河ドラマ特別展「麒麟がくる」（岐阜展／令和2年9月18日～11月3日 岐阜市歴史博物館）に出品。

【写真・画像資料】

- 申請日 令和2年4月3日 『明智光秀書状 小島左馬進宛（天正3年）8月21日付』1点
目的 亀岡市文化資料館に複製品製作及びその展示
- 申請日 令和2年7月9日 『明智光秀書状（天正3年8月21日付）』1点
目的 京都新聞にて明智光秀関係記事に参考図版として掲載するため
- 申請日 令和2年9月16日 『明智光秀書状（天正3年8月21日付）』1点
目的 『加能史料 補遺Ⅱ』に図版として掲載するため
- 申請日 令和2年9月27日 『明智光秀書状 小島左馬進宛（天正3年）8月21日付』、他3点
目的 南丹市立文化博物館令和2年度秋季特別展「八木城と内藤氏一戦国争乱の丹波一」図録に掲載のため
- 申請日 令和2年10月5日 『明智光秀書状（8月21日付）』、他1点
目的 福知山市発行『明智光秀の生涯と丹波 福知山』に掲載のため
- 申請日 令和2年10月28日 『明智光秀書状（8月21日付）』、『明智光秀書状（9月16日付）』、他4点
目的 福知山市発行『明智光秀からの手紙』に図版として掲載のため
- 申請日 令和2年11月10日 『明智光秀書状（天正3年6月19日付）』1点
目的 『明智光秀からの手紙』に掲載のため
- 申請日 令和3年2月7日 『織田信長朱印状写（天正3年6月7日付）』、他2点
目的 映像記録『明智光秀と「なんたん」ゆかりの地』に掲載し、DVD作成と南丹市ケーブルテレビ放送、及びインターネット（YouTube）にて公開するため

上記の他、『後水尾院御影』、『明月記 正治二年秋（7月2日条）』、『土佐日記』、『塩川文麟筆 楼閣山水図』等の写真・画像を11機関に提供した。

(2) 資料紹介（翻刻）

- 申請日 令和3年2月10日 『永禄十一年 何牆連歌』1巻
目 的 鶴崎裕雄編『明智光秀の連歌－愛宕百韻「ときは今天がしたしる五月哉」をめぐって』（和泉書院、令和3年4月刊行予定）に翻刻紹介のため。

(3) 研修・見学会

- 令和2年7月17日 健康栄養学科1年次生Bクラス「伝統文化に学ぶ」授業
令和2年7月18日 看護学科1年生次生「伝統文化の世界」授業
令和2年7月24日 健康栄養学科1年次生Aクラス「伝統文化に学ぶ」授業

(4) 学芸員出張講座（いずれも本学地域連携課との連携講座）

- 令和2年11月25日 『池田ゆかりの文人 牡丹花肖柏』池田市中央公民館（池田市教育委員会との連携）
令和3年1月14日 『歴史文学を学ぶ 北摂と和歌』池田商工会議所（NPO法人大阪府民カレッジ池田校との連携）
令和3年2月9日 『掛け軸・巻き物に関する実技及び講演会』牧の台会館（牧の台コミュニティ協議会文化部会との連携）

(5) その他の活動・催し

- 令和3年3月23日 『戦国武将の手紙』池田泉州銀行・自然総研トイロ倶楽部

2 図書館（3号館図書室・4号館メディアセンター）

(1) 利用サービスの充実

1) 学生選書ツアー

希望する学生を引率して書店に出向き、学生の読みたい本を現地にて選書し、購入するとともに、学生により良い図書館の環境を守る、という当事者意識を持たせることで図書館を身近なものと感じてもらえるよう、学生選書ツアーを実施している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書店へ出向くことは控え、紀伊国屋書店のオンライン選書システム『スマートプラトン』を利用した実施となった。

2) ガイダンス

図書館の利用方法、オンライン目録（OPAC）の使い方、論文検索の方法などの説明会を開催することで、利用者がスムーズに図書館機能を使いこなせるようにした。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、開催時期も6月に延期しての実施となったが、新入生に対し、学生参加型のガイダンスを行い、好評を得た。

3) 図書館だよりの発行

月1回発行しており、学内の図書館ホームページでも創刊号から最新号まで見られるようにしている。本誌に対する問い合わせもあることから、令和元年度同様、内容に多様性を持たせ、さらに利便性を高め、利用促進に繋げるための学生目線を意識した誌面づくりに努めた。

4) 学内ホームページ

学内ホームページを、より一層充実させた。今後も継続的に更新し、最新情報の発信や資料検索に役立つコンテンツの作成・改善を積極的に行い、利便性の向上に努める。

5) 学術機関リポジトリの公開

研究成果の蓄積・発信は、社会貢献が求められる大学の責務である。本学では学術機関リポジトリにおいて、令和2年度は大学紀要12巻、及び看護学ジャーナルを最新巻の3号まで公開した。今後もリポジトリを構築し、オープンアクセスとすることで、本学の研究成果を広範囲に発信することに努めた。

6) 学科、他部署との連携

各学科の資料の選定・購入については図書委員会を経て図書館が行っている。令和2年度も図書委員会を適宜開催し、各学科、授業に即した蔵書の新規購入に努めた。また、就職・進学するにあたっての予備知識、社会の一般常識、マナーの構築等に役立つ資料を充実させ利用の向上に努めた。

(2) 資料の管理

1) 蔵書の構築

図書館では、貸出・閲覧ランキング、レファレンス記録などを参考にしながら必要な資料を把握し、図書委員会において適宜選書し、購入している。また、学生の学修に適した図書を充実させるため、学生自らによる購入のリクエスト及び教員・学科のリクエストも随時受け付けている。令和2年度も教育・研究活動支援のため資料を選定し、蔵書を構築した。新型コロナウイルス感染拡大のため、海外・国内のデータベース提供機関や出版社が無償でのデータベース・電子ジャーナル提供を始めたことを受け、関係学科への案内、学生への周知を行った。

2) 蔵書点検及び整備

年に1回のペースで行っている蔵書点検を令和2年度も実施した。例年、約2週間の点検期間を要するが、蔵書点検に必要な機器のレンタル数を増やすなど、蔵書点検日数の短縮を行い、紛失資料も無く終了することができた。今後も蔵書点検を徹底し、資産管理に努めたい。

3) 紀要の整理

ネット上で閲覧可能かどうかを随時調査し、閲覧可能なものについては冊子体の受入れ辞退の連絡を行い、配架スペースの確保に努めた。

4) 年度別図書館利用状況

年度別 図書館(図書室・メディアセンター)利用状況							
		入館者数(人)		資料貸出(月別)			
		令和2年度 月別合計	令和元年度 月別合計	冊数		人数	
				令和2年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度
4月	図書室		1,433		246		133
	メディアセンター		1,250		131		59
5月	図書室		1,265		208		124
	メディアセンター		1,063		118		65
6月	図書室	1,325	1,469	229	255	108	146
	メディアセンター	1,210	1,347	147	70	73	51
7月	図書室	1,433	1,774	219	254	124	159
	メディアセンター	1,277	2,073	79	134	49	71
8月	図書室	494	567	82	93	26	39
	メディアセンター	465	586	41	41	20	23
9月	図書室	1,049	941	219	267	125	139
	メディアセンター	832	553	57	34	35	25
10月	図書室	1,193	1,271	240	253	129	122
	メディアセンター	1,132	1,015	94	92	73	59
11月	図書室	1,292	1,456	242	315	138	173
	メディアセンター	1,205	1,327	74	92	57	63
12月	図書室	1,292	1,082	181	163	94	89
	メディアセンター	1,215	1,111	134	71	69	48
1月	図書室	687	1,211	209	280	80	122
	メディアセンター	689	1,671	167	240	77	110
2月	図書室	434	198	80	56	42	16
	メディアセンター	409	423	31	31	20	19
3月	図書室	630	479	53	33	28	14
	メディアセンター	364	354	25	30	20	20
年間	図書室	9,829	13,146	1,754	2,423	894	1,276
	メディアセンター	8,798	12,773	849	1,084	493	613

3 北摂体育館

(1) フィットネスクラブ

定員枠は令和元年度と同じく正会員 180 名、午後会員 130 名の 310 名であるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、会員数は令和元年度 259 名から 164 名へと大きく減少している。年間利用者数は令和元年度に比べて 12,419 名減の 10,472 名となった。

フィットネス利用状況(人数) (人)

	一般会員	65歳以上会員	計
4月	0	0	0

5月	0	0	0
6月	36	384	420
7月	97	1,014	1,111
8月	70	813	883
9月	90	1,022	1,112
10月	116	1,111	1,227
11月	121	992	1,113
12月	82	957	1,039
1月	89	1,018	1,107
2月	99	1,066	1,165
3月	105	1,190	1,295
合 計	905	9,567	10,472

(2) テニスクラブ

クラブ会員数 48 名、スクール会員数 4 名

テニスコート利用状況 (人数) (人)

	自治会	スクール	クラブ	計
4月	0	0	200	200
5月	0	0	0	0
6月	22	12	474	508
7月	45	24	496	565
8月	30	0	425	455
9月	27	30	591	648
10月	40	23	612	675
11月	34	29	551	614
12月	25	20	564	609
1月	29	16	527	572
2月	23	28	573	624
3月	35	18	499	552
合 計	310	200	5,512	6,022

(3) 体育館施設利用状況

新型コロナウイルス感染拡大のため、令和2年4月から6月17日までの間閉館した。また、11月から2月までの間アリーナ天井改修工事のため利用不可とした。平野幼稚園生活発表会は中止となり、箕面学園高校バレーボール部などの利用を含め4,703人の利用者数となった。

[利用内容]

アリーナ : バレーボール・バスケットボール

講義室：英会話、自彊術・ピラティス

体育館施設利用状況（人数）

（人）

	アリーナ	講義室	計
6月	300	102	402
7月	490	136	626
8月	470	107	577
9月	885	157	1,042
10月	810	157	967
11月	0	162	162
12月	0	122	122
1月	0	122	122
2月	0	177	177
3月	290	216	506
合計	3,245	1,458	4,703

(4) 収入

（円）

	アリーナ・講義室・和室	フィットネス	テニス	計
4月	0	0	662,700	662,700
5月	0	0	273,700	273,700
6月	1,480	0	328,300	329,780
7月	48,315	701,696	49,500	799,511
8月	153,220	652,852	218,500	1,024,572
9月	504,340	635,267	355,900	1,495,507
10月	289,965	620,477	71,500	981,942
11月	356,965	606,947	445,500	1,409,412
12月	18,180	565,802	109,500	693,482
1月	0	552,441	49,500	601,941
2月	32,890	529,961	15,000	577,851
3月	29,190	518,858	297,000	845,048
合計	1,434,545	5,384,301	2,876,600	9,695,446

(5) 主な行事・活動

11月17日（火） 「のせでん平日ハイキング」（北摂学舎ゴール）約400名

12月12日（土）・13日（日） ものすごい会ソフトボール（グラウンド・テニス休業）

3月27日(土) ものすごい会研修会(アリーナ)

(6) 地域貢献

地域への社会貢献活動として次の活動を行った。

- ・大和自治会にテニスコート開放
- ・「のせでん平日ハイキング」(能勢電)への協力 11月17日(火)

4 共通教育センター

(1) 令和2年度の会議開催と事業の進捗状況について

本センター設置の趣旨「全学的な教育施策の企画立案ならびにカリキュラム開発などを担当する」に基づき、本学ならではの教養教育ならびに各学科の特色を生かした、実効性のあるリメディアル教育・初年次教育の充実を図るべく共通教育委員会を開催し、その都度、各科目担当教員より学生の学修態度や学びの状況などを相互に報告しあった。また、全学的な動向については教授会などの内容を報告し、センター所属教員相互の情報共有を促すとともに、全学的に共通する教育プログラムの質的評価と新たなプログラムの可能性について意見を交換した。

なお、共通教育センター会議の開催状況と主な内容は下記のとおりである。

開催日時	主な内容
令和2年4月1日 (水) 15:30~16:20	新センター長の挨拶(「本学の共通教育の活性化と強化について」を伝える)、センター教員の自己紹介と共通教育に対する意見交換、前センター長から共通教育センター設置の経緯に関する説明、令和元年度の活動に関する総括、令和2年度の活動方針についての説明、共通教育委員会の委員選出、リテラシーサポートセンター運営委員の選出、学内動向の共有
令和2年6月2日 (火)~28日(日)	4月16日から5月6日まで緊急事態宣言が発令され、遠隔授業をし、その後、宣言が解除され、対面授業となった。その過程の気づきをメールで報告。(メール会議)
令和2年7月29日 (水) 9:30~10:20	学内動向の共有、共通教育についての意見交換(他大学の資料を参考に本学の共通教育センターの組織図やホームページに掲載された説明文の検討)
令和2年9月30日 (水) 13:00~14:00	学内動向の共有(8月と9月の教授会報告はメールで発信。私立大学等改革総合支援事業に係る評価項目に関して、学部長から説明)、共通教育のありかたに関する報告と意見交換(9月23日の学長との会談内容を報告し、意見交換する)
令和2年10月2日 (水) 9:30分~10:20	学内動向の共有(教授会報告:学生支援センターから奨学金に関することとリテラシーサポートセンターからSA募集に関すること、学部長から子ども教育学科学部化に関する報告)、共通教育のありかたに関するまとめ(共通教育委員会を11月16日開催)と意見交換、後期授業での気づきを報告(3名)

令和2年12月2日 (水) 13:10分~14:10	学内動向の共有(メールで報告)、第1回共通教育委員会の報告(各学科委員の共通教育に関する意見交換、依頼事項)、新年度事業計画と令和3年度予算申請案の審議、e-ラーニングの検討(令和3年度の検討事項)
令和3年2月17日 (月) 14:50~15:50	学内動向の共有、令和3年度予算申請結果についての報告、第2回共通教育委員会(1月28日)の報告(共通教育に関する学科委員の意見に対するセンター教員の意見交換)、令和2年度のまとめ

(2) 令和2年度総括

共通教育センターの令和2年度の活動について、次の通り総括する。

事業計画書に示した施策の3点(教養教育の内容の充実・汎用的技能開発の教育に関する調査研究・その他全学的に共通する教育に関する議論)についてバランスよく進めていくことを令和3年度の目標とする。そして、具体的には以下の課題を掲げた。

- *教養教育については、新規科目の開発には至らなかった。
- *リメディアル教育(eラーニング:アオドリ)については、学科との連携が充分にとれるところまで至らなかった。
- *「サービ斯拉ーニング」の設置を提案し、教務委員会に上程したが、審議未了となり令和3年度に審議を継続することとなった。

5 情報教育センター

(1) 情報教育センターの令和2年度事業とその特色

情報教育センターの令和2年度事業として次の5つを計画した。

- 1) 教育・研究支援の充実と学园内情報システムの維持・管理
- 2) クラウド化への対応
- 3) ソフトウェアの整備
- 4) パフォーマンスとセキュリティの向上
- 5) 環境問題への取組み

さらに事業の特色は次の通りである。

- 1) コロナ禍対応のための遠隔授業支援
- 2) 仮想基盤システムの更新
- 3) インターネットアクセス回線の変更

(2) 利用者管理

- 1) 大学・短期大学の学生・教職員に対する利用者登録及び利用者管理

令和2年度の新規登録者数は、大学学生258名(内編入生3名)、教職員延べ63名であった。このほかに部局等の業務用利用者18ユーザーを登録した。

利用者登録にあたり、情報教育センター発行のWindows10環境対応の「コンピューター利用の手引」第7版をオリエンテーション時に配布した。

教職員に対しては、新任者研修にて情報教育センターからの時間を設けるとともに、随時、利用者登録を受け付け、教育及び研究への情報施設・設備利用の便宜を図った。

2) 科目等履修生などの利用者管理

科目等履修者に対してはその都度、必要に応じて利用者登録を行うこととしている。

(3) 施設管理

1) ネットワークやコンピューター室等の情報施設・設備の維持・管理

年間を通してネットワークやコンピューター室などの施設・設備の維持・管理に当たった。令和元年度と同様に株式会社三谷商事と保守契約を結んだが、緊急事態宣言により、4月当初は人員派遣受入れを停止し、5月第3週から人員の派遣を受けた。

A 学生利用パソコン及び教職員の研究・業務用パソコンに対して

学生向けには、コンピューター室・情報教育センター室・コンピューター自習室・学生談話室などのパソコン・プリンタの維持・管理を行った。

また、令和2年8月下旬・令和3年3月下旬の2回にわたりコンピューター室の学生用及び教員用コンピューターすべてのハードディスク内容に修正プログラムを適用してセキュリティの向上とソフトウェアの安定動作を図った。

教職員向けには、新規採用教員の研究室パソコンの整備を行うとともに、日々の求めに応じて、不具合対応、メンテナンス・修理等を行った。

遠隔授業対応として、1号館4階にZoomStudioを設置し、総務部とともにその運用にあたった。テレビ会議システムZoomを利用した遠隔授業の配信や授業ビデオの収録に活用されている。

一方、一部の学生は遠隔授業に対応できる環境が整っておらず、苦勞している者もある。そこで、貸出パソコンと貸出モバイルルーターを整備することし、後期から学生への貸し出しを開始した。

Windows7からWindows10へのバージョンアップ対応を引続き行ったが、令和2年度後半においてもWindows7端末はおおよそ70台程度が残っていたため、ウイルス対策ソフトウェア及びファイアーウォールの運用強化によって安全性の確保に努めた。

B ネットワークに対して

数年来、事業計画では仮想基盤システム全体とネットワークシステムの更新を計画している。令和2年度は、仮想基盤システムの更新とインターネットアクセス回線の変更を行ったが、不具合が発生し、年度末の問題解決まで新回線単独の運用ができなかった。

無線LAN接続については、現有の環境を安定的に運用することに努め、また国立情報学研究所(NII)が運用主体となった国際学術無線LANローミング基盤「eduroam」の安定運用に努めたが、老朽化したコントローラーの不具合により無線LANが接

続できなくなる事象が令和3年1月下旬に発生した。これにはファームウェアのアップデート等で対処できたが、根本的には老朽化した設備の更新が必要である。このため、当面の対応として、特に学生の多い場所での無線LANアクセスポイントの増強を年度末に行った。

C セキュリティについて

コンピュータセキュリティを向上するための対策として、システム上の対策と、教育・啓発活動による対策を実施している。

システム上の対策としては、ウイルス対策ソフトウェアの導入、ファイアウォールの設置、スパムメールフィルタやウェブフィルタリングなどさまざまな対策を実施している。また、クラウドシステム office365 上のセキュリティ対策も検討・調整を行っている。今後も対策を強化していきたい。

また、教育・啓発活動としては授業を通じたセキュリティ教育、教職員向けの情報提供など啓発活動を行っている。

2) 情報サービスの運用・協力

教務システム及び図書館が担当している機関リポジトリの安定運用に協力した。

(4) 教育・研究支援

1) センター室の運用

授業期間中の月曜日～金曜日 12:30 から 16:30 まで、センター室を開室した。センター室では、学生のパソコン利用の他、質問の受付、各種手続きの対応、卒業研究指導のサポートなどの教育支援を行った。また、教職員からのパソコン利用相談や学会発表用のポスター印刷の相談を受け、教育研究への支援活動を行った。また、遠隔授業サポートの比重が高まると予想されたため、後期より DACS 社と契約をして、遠隔授業の技術的サポートを行った。

2) 情報活用環境の整備

情報活用環境の整備として、以下のような対応の努力を行った。

・学内情報サービス

各部署や図書館・メディアセンターのサービスへの入口としての機能を持つ、学内ホームページを適切に運用した。また、各部局や学科等のための共有ディスク領域を提供した。

・教職員パソコンの再配置・再整備

退職や配置転換によって使用者不在となったパソコンを再整備して必要箇所に配置した。また、部局・研究室等の配置換えや新機種購入に際しての各種の整備を行った。

・令和3年度新任教員のパソコン整備

令和3年度着任の新任教員向けのパソコン整備作業を情報教育センターで行った。

(5) クラウド化への対応

緊急事態宣言を受け、遠隔授業のためのクラウドツール Zoom を急ぎ導入し、5月連休明けよりオンラインリアルタイム授業を行う体制を整えた。また、メールシステムとして office365 を運用していたが、遠隔授業対応として6月頃より Microsoft Stream(ビデオ配信)、Microsoft Forms (アンケート作成・集計)、Microsoft Teams (グループウェア・コミュニケーション) などの使用を開始した。

8月中旬からは、Teams による教員向けオンライン講習を行い、8月末にはその補足講習を行った。これにより、Microsoft Teams の利用が学内に広がった。

令和3年2月中頃には教員のクラウドツールへの習熟を目的に遠隔授業でのツールの利用法を解説する研修ビデオ5本を作成した。

これらとは別に仮想基盤システムの更新に合わせて、停電等で学内サーバーがダウンすると office365 へのサインインが妨げられる事象を回避できるよう対策ツールを設定した。

(6) ソフトウェアの整備

Microsoft office/WindowsOS の包括ライセンス契約を継続し、新規導入されるパソコンに対して office 等の標準的な整備を行った。また、全学的なパソコン必携化を見据えて、学生に office 及びセキュリティソフトを配布する体制を整えるべく、準備を進めた。実際の配布は令和3年5月頃の予定である。

年間レンタル契約で導入している統計ソフトウェアパッケージ SPSS については、卒業研究や教員の研究に活用されている。特に看護学科の利用者が大幅に増えているが、ライセンス数の増加が難しい状況である。なお、新ファイアーウォールによる学外からの接続方法について、SPSS 利用が可能となるよう引続き、システム上の調整を行っている。

また、健康栄養学科所管の栄養計算ソフト「栄養君」のコンピューター室への展開にも協力した。

(7) パフォーマンスとセキュリティの向上

令和2年8月から DACS 社と協力し、広範囲のシステム関連項目調査を行い、セキュリティの問題点の洗い出しを行った。これに基づいて、情報センターのサーバー室の改装、特権 ID 管理、機器廃棄ルールの確立、などの事項を年度末から令和3年度初めにかけて実施する運びとなった。

パフォーマンスの向上については、仮想基盤システムの更新とインターネットアクセス回線の変更による大幅な向上を目論んでいたが、他の老朽設備との兼ね合いと回線不具合によって目立った改善を示すことができなかった。なお、回線不具合は年度末に解消の見込みが立った。

(8) 環境問題への取組み

学内に設置されているレーザープリンタのトナーカートリッジを情報教育センターに集め、リサイクルを行った。なお、インクジェットプリンタのインクカートリッ

ジのリサイクルは、学生支援センターで行われているリサイクルに協力する形で行った。

旧型や故障したパソコン・プリンタ等の情報機器は、教職員個別に廃棄するのではなく、情報教育センターに集めて一括で廃棄することとしている。情報教育センターでしっかりと情報を消去したのち、資源としてリサイクルすることとしており、令和2年度は仮想基盤システムの更新に合わせ、滞留した廃棄機器の処分を行った。

(9) 令和2年度事業の特色

1) 新型コロナウイルス感染拡大への対応のための遠隔授業支援

「教育・研究支援の充実と学園内情報システムの維持・管理」や「クラウド化への対応」でも述べたようにクラウドシステムの本格的な利用を開始するとともに、教職員にそれを促す導入支援・導入教育に取り組んだ。総務部とともに「令和2年度補正予算・大学等における遠隔授業の環境構築の加速による学修機会の確保」の補助金獲得にも取り組み、Zoom ライセンス・貸出パソコン・貸出ルーター、さらに仮想基盤システムなどに充当した。

2) 仮想基盤システムの更新

これまでの HP 社による構成から、Dell 社による構成とし、機器を新しいものに刷新した。

3) インターネットアクセス回線の変更

ソニービズネットワークス社の NUR0 の導入を計画し、通信費用の低廉化と合わせてパフォーマンスアップを図る予定であった。新型コロナウイルス感染拡大により切替え時期が大幅に遅れ、1 月末に回線切替えを行ったが、不具合が発生したため、旧回線に切り戻しを行った。

調査の結果、特別な設定項目を発見し、問題が解決したため、令和3年度の適切な時期に再度の切替えを行う予定である。

6 リテラシーサポートセンター

【令和2年度実施事業の成果と課題】

(1) 令和2年度基本方針

令和2年度は事業の実施に当たり、運営委員会にてリテラシーサポートセンターの基本方針を決定した。基本方針では、学生の現状認識を運営委員と共有するとともに、i) 大学生活の不安解消の取組み、ii) 基礎学力向上の取組み、iii) アカデミックスキルを学べる場として、の3つの活動方針を立てている。

事業の成果については、これまでの量的な報告とは別に、運営委員、専門支援アドバイザー、学生アシスタント（以下 SA という）や利用した学生の声を編集した「令和2年度リテラシーサポートセンター活動集」を作成した。

(2) リテラシーサポートセンター利用者数

令和2年度は、2,137名の利用があった。4月、5月には閉室していた期間があり、

総開室日数は194日となる。1日あたりの利用者数は11.0人であった。

利用目的は自習が1,168名と多く、次いでSAの利用が402名となる。ただし、SAの利用者のなかには相談に訪れた学生と、センターで活動しているSAが含まれている。令和3年度は学生の相談とSAの活動を分けて集計することが課題に挙げられる。

(3) 実施プログラムの充実と拡大

① 初年次教育の実践サポート・リテラシーセンターとしての機能強化

令和2年度は基礎学力指導として、i) 苦手科目克服に自発的に取り組めるようにする、ii) 履修科目との関係で必然的に学べるものを担当教員と連携してセットする、iii) ゲーム的にできるものに賞を与えたりして、伸び率を評価する、の3つを行った。

i) では、運営委員である健康栄養学科教員が、クラスの学生に聴き取りを行った。その後、苦手とされる割合計算（小数点や分数など）の指導を、子ども教育学科のSAを中心に指導した。

ii) ではレポートの書き方のわからない学生、レポートをよりよく書くことを望む学生へ個別指導を行った。その他、社会人入学の学生へ、同じ学科のSAが学修相談を行った。

iii) 新型コロナウイルス感染拡大により、企画の全てを達成することはできなかった。そのなかでも、センターとして新たにはじめた新聞購読と連動し、コラム評のコンクールを2回実施した。優秀者については、後述の学生向けニュースレター「Literacy」に本人の許可を得て掲載した。

② 学生の教養の幅を広げるプログラムの充実

3つの活動方針の内、i) 大学生活の不安解消の取組みとかかわって、SAを中心に後輩学生の疑問に答える教養ミニ講座を開催した。また、短期大学の廃止に伴い、卒業生の交流と在学生への学びのサポートを目的とした大阪青山学びプロジェクトを講座の形で実施した。

2種類の講座について以下に図示する。

【教養ミニ講座一覧】

No.	講座名	担当学科	開催日
1	領域別実習前 先輩からのアドバイス	看護	7月21日
2	領域別実習前 先輩からのアドバイス	看護	7月24日
3	病院実習にあたっての心構え	健康栄養	10月13日
4	健康栄養学科1年次生へ後期試験に向けて先輩からのアドバイス	健康栄養	11月9日
5	コース選択アドバイス	子ども教育	11月18日
6	コース選択アドバイス	子ども教育	11月25日
7	コース選択アドバイス	子ども教育	12月2日
8	コース選択アドバイス	子ども教育	12月9日
9	お菓子作り講座（あめちゃんクッキー & ブラウニー）	製菓	11月25日から
10	看護学科1年次生へ後期試験に向けて先輩からのアドバイス	看護	11月27日

【学びプロジェクト一覧】

No.	講座名	担当学科	開催日
1	調理製菓学科の卒業生から後輩へアドバイス	製菓	10月7日
2	調理製菓学科の卒業生から後輩へアドバイス	調理	10月9日
3	青短卒業から幼稚園教諭・青年海外協力隊、そして、小学校教員へ	子ども教育	11月23日

③ 知らず知らずのうちに基礎学力の形成を図れるように日常活動を行う。

コラム評コンテストの他には企画が実施できなかった。令和3年度は新入生を対象に、学内の学修施設を巡るスタンプラリーやSAが興味関心のある事柄について小グループで研究活動を行うなど、実施可能なものを複数企画することが課題である。

④ 青山学びの会

基本方針、3つの柱の内iii)「アカデミックスキルを学べる場として」においてはSAを中心とした、教員との自主的な研究会を定期開催した。参加者の関心ある内容（令和2年度は幼児教育）について、読書会の形式で行った。

⑤ 基礎学力形成やアカデミックスキルの形成に係る文献・資料の収集の継続

学生の自主学修資料として、国家試験対策の参考書を購入した。SAの自習資料としても利用されている。

⑥ 先進地視察等による最新のリテラシーサポートの情報の提供

他大学への視察については新型コロナウイルス感染拡大のため、実施できなかった。令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し、学修支援など、題材を絞ってリモートで参加できる研修などへの参加が課題となる。

(4) 学修支援に関する周知・啓発活動の継続

前述の「令和2年度リテラシーサポートセンター活動報告集」に加え、学生向けニュースレター「Literacy」6号を発刊した。「Literacy」については学内掲示とともにホームページ上での公開も行った。

前身の学習支援室から刷新されたことから、パンフレットの作成・配布による周知を図った。

(5) SAによる学修グループの育成支援

① SAの活動

令和2年度は61名のSAを養成し、活動した。内11名は1年次生であり研修を兼ねているため、本格的な活動は令和3年度より開始する。

大学へ登学できなかった4月、5月の期間には、各学科学年にいるSAリーダーがメールなどで会議を行い、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けずにできる活動について模索した。結果、大学生活に不安を覚えている1年次生を主な対象に「SAからのおたより」を作成し、A-portalにて配布した。

教養ミニ講座も従来同様の開催は望めなかったが、実習前の相談などについて SA が主体的に取り組んだものについては、少人数での参加、会場の確保、学科教員への理解を十分に行い、実施した。

(6) リテラシーサポートセンターの学修環境の整備

密を避けるため、年度当初 SA は従来の形では当番活動が行えなかった。飛沫拡散防止の亚克力板を購入するなど可能な限り対面での活動を保障している。自習用のパソコンについては、ソーシャルディスタンスの確保から利用台数を制限していたが、こちらもパーティションを購入することで利用を保障した。

vi 委員会

1 自己点検評価委員会

○ 活動目標

令和元年度より当面の目標を「内部質保証システムの確立に向けた取組みをすすめること」とし、認証評価第三サイクルにおいて重点項目化される「内部質保証」を見据え、その仕組みを整えていくための諸活動を推進することとした。

○ 総括

令和 2 年度は委員会が年度末の 1 回しか開催できなかった。委員会の性格からして年度後半に開催が集中する本委員会ではあるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響とはいえ、委員会の実施管理体制に問題があったと言わざるを得ない。

令和 3 年度は、実施管理体制を抜本的に整えつつ、アセスメントポリシー策定のための協議を重点事項とし、教員評価の試行について、その PDCA サイクルの確立をめざす。また新年度は定期的な本委員会の開催を行える体制を整える。

2 FD推進委員会

教員の資質の向上及び教育力の強化、学生の基礎学力向上及び専門能力の養成に向けて活動した。

(1) 授業アンケートの実施及び評価

アンケートを可能な限り記名式で実施し、責任ある回答を促した。教員への依頼文にチェック欄を設け、アンケートの目的と趣旨説明の漏れがないようにした。アンケート集計結果をもとに「授業アンケート結果への対応」を作成するようにし、アンケートを授業改善のために利用する方策を検討した。授業アンケートの結果と結果への対応を図書館で公開した。

(2) 研修会の実施

遠隔授業の増加に伴い、令和 3 年 2 月に「オンライン授業の効果的な方法」について募集し、事例としてまとめ教員に共有した。

(3) ティーチング・ポートフォリオの導入

令和2年度から導入予定であったが、研修会・説明会が新型コロナ感染拡大防止の観点から中止となり導入出来なかった。令和3年度以降も継続審議とする。

(4) 外部情報の収集・分析

他大学の活動内容の情報を委員の間で共有し、本委員会の活動指針について検討を行った。

3 SD推進委員会

新型コロナウイルス感染拡大の影響下での事業実施であったが、「大学事務職員」として、それぞれの職責や職務に応じて必要な知識と技能を修得するよう取組み、学長のリーダーシップを支援できるよう、職員力を高めることに努めた。

(1) FD・SD合同研修会

大学職員の基本的な基礎知識を修得するため、教職員に共通するテーマの研修会を企画し開催した。

①人権啓発研修会

日 時：令和3年2月16日（火） 16時00分～17時00分

場 所：リモート開催

講 演：人権啓発研修－LGBTQ等の人権を学ぶ

講 師：りそなホールディングス人材サービス部ダイバーシティ推進室

参加者：73名（教員33名、職員40名）

②大学改革に関する取組み

日 時：令和3年3月18日（木） 11時00分～12時20分

場 所：本学 4号館6階大講義室

講 演：「日本の大学は今、地方の大学は今－この時代で教職員がなすべきことは」

講 師：学校法人関西文理総合学園 長浜バイオ大学 理事長 若林 浩文氏

参加者：64名（教員34名、職員30名）

(2) SD研修会

大学業務全般の情報共有と職員のスキルアップを図るため、管理職員の人事考課訓練、及び各部署輪番で業務内容に係る勉強会を若手・中堅職員を発表者に実施した。

①人事考課訓練

日 時：令和2年12月24日（木） 11:30～12:00

場 所：本学 4号館1階大該室

講 師：総務部長

参加者：管理職員10名

②総務部

日 時：令和2年7月30日（木） 16時30～17時30

場 所：本学 本館2階210講義室

テーマ：「庶務課の業務について」

参加者：45名（教員12名、職員33名）

③入試部

日時：令和2年10月20日（火） 16時30分～17時30分

場所：本学4号館5階505講義室

テーマ：「国の入試改革と本学の対応（概要）」

参加者：38名（教員10名、職員28名）

④健康栄養学科事務室

日時：令和2年12月22日（火） 16時30分～17時30分

場所：本学4号館5階505講義室

テーマ：「健康栄養学科・国家試験対策室の業務について」

参加者：42名（教員11名、職員31名）

⑤図書館

日時：令和3年1月21日（木） 15時～16時

場所：本学4号館5階505講義室

テーマ：図書館業務について

参加者：34名（教員9名、職員25名）

(3) キャリア支援研修

本学の課題発見・解決を見据えつつ、キャリアアップすることを支援するため、次のことを行った。なお、セミナー等への参加支援については、新型コロナウイルス感染拡大の中で限定的なものとなった。

【大学行政管理学会への入会支援】

大学行政管理職員の育成・確立を目的に設立されている「一般社団法人 大学行政管理学会」に、2名（入試部1、総務部1）の入会を支援

【各種研修会等への参加支援】

①関西経営研究会 定例セミナー

テーマ：「民法改正と判例から見る私学の労働問題」

日時：令和2年7月6日（月）

場所：大阪ガーデンパレス

参加者：1名

②りそな総合研究所 研修セミナー

テーマ：「新入社員ステップアップ研修」

日時：令和2年7月10日（金）

場所：日本銀行協会別館

参加者：1名

③日本経営協会

テーマ：「学校法人、大学・短期大学における経営企画業務の基礎」

日時：令和2年7月16日（木）

場 所：日本経営協会関西本部

参加者：2名

【自己研鑽への支援】

大学職員としての知識を深めるため4号館2階フロアーに設けた「SD関係書籍コーナー」を引続き設置し、自己研鑽への支援を行った。

4 危機管理委員会

新型コロナウイルス感染拡大に対し、継続的かつ全学的な対応を必要とすることから、危機管理委員会を中心に組織的に取り組んできた。

令和2年度においては、計16回にわたって危機管理委員会を開催し、文部科学省や厚生労働省からの各種通知、大阪府からの要請など行政からの情報を適切に把握するとともに、他大学の状況についても把握に努め対応し、卒業式、入学式、オープンキャンパスなど各種行事、分散授業の実施、遠隔授業対応、ネット環境・教室環境の整備、感染予防対策のマニュアル化と周知、感染防止体制の整備、クラブ活動の取扱い、教職員の勤務体制の整備等、多岐にわたって検討し対応策を講じた。委員会の決定内容は、全教職員に情報共有を行い、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の学内徹底を図った。

また、対応状況については、学生・保護者、教職員及び学外関係者に向けて適宜ホームページで情報発信するとともに、罹患学生が発生した際には、池田保健所及び居住地の保健所と連携を図り、濃厚接触者の確認と登学停止等の措置、及び活動エリアを特定し消毒作業等を行った。

vii 事務部門等

1 総務部

(1) 大学ガバナンス改革の推進

学長のリーダーシップの支援体制の強化を図るため、引続き諸制度や関係規程を見直し、整備を行った。主な規程等は次のとおりである。

- ① 短期大学の廃止に伴う諸規程の改廃を行った。(令和3年4月1日施行)
- ② 大学運営会議、大学改革委員会及び学科長会議を統合し、大学運営の重要事項を審議する会議体として「大学運営推進会議」を設置するなど、学長のガバナンス強化を図るため各種委員会の統廃合を行った。(令和3年4月1日施行)
- ③ ハラスメント防止のため事業主の雇用管理上の措置義務等の新設及び防止策等の整備のため、学園の就業規則の一部改正を行った。(令和3年4月1日施行)
- ④ 業務運営及び会計処理の適法性等について、公正かつ客観的に調査及び検証し、本学園の健全な運営に資することを目的に内部監査規程を制定した。(令和3年4月1日施行)

(2) 大学自己点検評価委員会及び短期大学部自己評価委員会の支援

大学自己点検評価委員会及び短期大学部自己評価委員会が行う自己点検について、

資料の取り纏めなどの支援を実施した。

(3) 同窓会活性化の支援

短期大学の同窓会と大学の同窓会の合併により平成 30 年度に新たに発足した「青櫻会」の活動活性化に向け、引続き支援に努めた。

(4) 経費の削減

- ① 中期計画に基づく事業計画とそれに伴う予算編成について、全部門長、担当者に向けた説明会を実施し、効率的・効果的な予算管理や経費執行の促進に努めた。
- ② 予算の来期予定及び執行状況を把握するため、期中において全部門にヒアリングを実施した。

(5) 資産管理の充実

固定資産及び物品管理規程に基づき、引続き固定資産管理の適正化に努めた。

(6) 教育後援会関係

教育後援会の活動に関し、令和 2 年度の決算事務、令和 3 年度の予算案を取りまとめるなど、教育後援会の業務を引続きサポートした。

2 教務部

(1) 教務課

① カリキュラムの改善

教員養成課程再課程認定の認可を受け、健康栄養学科及び子ども教育学科の教員養成課程、看護学科においても教育課程の改編を行い、それぞれ新課程が導入された。新課程への円滑なる移行に関して、計画通り遂行中である。令和 3 年度も再履修者と編入生が在籍するため、混乱なきよう今後も努めたい。

② 授業の改善

授業アンケートの結果については、科目担当者に報告しその対応については教務部にフィードバックされた。全てを学長・副学長・学部長に報告し改善が必要な場合は個別面談を行った。学生からの教務部窓口への要望については、その全てを、学長・副学長・学部長へ報告し、授業の改善もさることながら、科目担当の見直しや適正配置を行った。

③ 学修成果の把握

新型コロナウイルス感染拡大により、変則授業の実施、遠隔授業への対応等で、ティーチングポートフォリオを実施することができなかった。ただし、困難な中でも各教員が小テスト（理解度テスト）やレポート、グループワーク等を取入れる工夫をし、日々の教育に尽力した結果、授業終了報告書により教育成果を把握することができた。令和 3 年度は、FD 推進委員会と連携しティーチングポートフォリオの全学的な取り組みを実施したい。

④ 学修環境の整備

アクティブラーニングを実施できる教室を設けることについては、ラーニング・コモンズも含めて行えていない。ただし、環境整備の一環として2-401、2-405、2-504、2-601、204教室をレーザー仕様に変更することができた。令和3年度も優先度を勘案しながら、改善に取り組みたい。

⑤ 短期大学部調理製菓学科廃止に向けての対応

調理コースに留年者が存在することになった。令和3年度前期で卒業ができるよう担当教員と連携をとり指導を行う。

(2) 高大連携室

① 大阪府立能勢高等学校との連携

大阪府立能勢高等学校の第2学年生の「子どもの発達と保育」2単位の授業の一部を大阪青山大学と連携して行いたいということで、令和元年11月28日(木)に子ども教育学科との連携授業の第1回目を実施した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大により中止になった。

② 大阪高等学校との連携

大阪高等学校は、生徒の主体性涵養を目的に、「パートナーシップ制度 Miraie」という高大連携の取組みを推進している。大阪青山大学に対して高大連携の要望があったので、高大連携室としては、連携の具体的な内容を検討しながら推進を図ることにした。

3 保育・教職支援室

平成30年4月に開室した保育・教職支援室(開設時:教職支援室)について周知し実習・就職の情報の拠点として、学生の実習・就職支援を一人ひとりのニーズに応じて対応することができた。

1) 保育・教職支援室の職務

- ① 私立の保育所・幼稚園・施設関係への就職希望の学生に対して、学生一人ひとりの個性や能力に応じたよりよい就職活動ができるよう、子ども教育学科と連携を図りながら就職フェアの情報提供や園見学の相談等の就職支援を行った。
- ② 公立の保育所・幼稚園・小学校・施設関係への就職希望の学生に対して、子ども教育学科や健康栄養学科と連携をとりながら、採用試験合格に向けての筆記試験への対応や履歴書作成、面接練習等の支援を行った。
- ③ 将来の進路や就職を見据え、保育所・幼稚園・小学校・施設での保育実習・教育実習における必要書類や提出期限の確認を行うなど、支援の充実を図った。
- ④ 計画では、子育て支援室の充実に向け、参加者のニーズに応じた支援・補助に努めることとしていたが、新型コロナウイルス感染拡大により開設はできなかった。

2) 職務達成のための取組み

① 就職先の確保・情報提供

私立の保育所・幼稚園・施設関係について、令和元年度就職先や新規開拓先も含

めて求人票の依頼をした。返送された求人票や別途独自に送付されてきた求人票はファイルに整理するとともに学生が見やすいように掲示するなど、教員との連携を図りながら学生に多くの求人先を提供することができた。

また、公立の保育士や教員などを志望する学生については、都道府県・政令指定都市・市町村の採用試験受験案内の収集・整理を進め、保育・教職支援室にも掲示するなどタイムリーな情報提供に努めるとともに、採用試験受験に向けて学生のニーズに応じた具体的な相談・指導を行うことができた。

② 就職関連事務

各求人先との連絡調整、学生への情報提供・アドバイスに努めるとともに、啓蒙活動のため、「保育・教育者を目指して」（仮称）の冊子作成を行う。また、保育士資格や教員免許の取得申請事務を行った。

③ 採用試験対策に関わる支援

公立の保育士や幼稚園教諭、小学校教諭、施設職員になるためには、各自治体の実施する採用試験に合格する必要がある。それに向け個々の受験先を把握し、教員が中心となって次のような試験対策を実施している。それに伴い、対策講座の日程調整や受講事務等の補助・サポートに当たった。

- ・採用試験に関する相談・指導
- ・教職教養、一般教養、専門科目、一般知能などの筆記試験の指導、エントリーシートの記入指導、論作文の書き方指導、面接・場面指導、模擬授業・保育の指導等
- ・小学校教員採用試験における大学推薦に関する指導
- ・保育所、幼稚園、小学校などでのボランティア活動に関する紹介・指導
- ・各教育委員会主催の「教師養成塾」の案内・受験に関する指導
- ・講師登録に関する指導

【教員・公務員試験対策講座概要及び受講者数】

- ・教職教養対策講座：令和2年11月13日～1月14日 全20コマ
受講人数：13人
- ・一般教養対策講座：令和3年3月1日～3月19日 全21コマ
受講人数：10人
- ・一般知能対策講座：令和2年11月12日～2月4日 全16コマ
受講人数：18人
- ・保育士専門対策講座：令和3年3月25日・26日 全4コマ
受講人数：6人
- ・幼稚園専門対策講座：令和3年3月22日・23日 全4コマ
受講人数：4人

【就職状況】

私立関係

	就職希望者数	就職内定者数	就職率
幼稚園	10名	10名	100%
保育園（所）	17名	17名	100%
施設	5名	5名	100%
認定こども園	5名	5名	100%
放課後デイ	3名	3名	100%
合計	40名	40名	100%

公立関係

	就職希望者数				就職率
		合格者	講師	合計	
小学校	15名	3名	12名	15名	100%
幼保	1名	1名	—	1名	100%
合計	16名	4名	12名	16名	100%

④ 保育実習・教育実習などの実習支援

子ども教育学科では2年次から4年次前期にかけて、保育実習（施設実習）・幼稚園実習・小学校実習（介護等体験実習）を9回実施している。それらの実習が円滑に実施できるよう、実習委員会に出席するなど実習担当教員との連携を図り、次のような実習支援を行った。令和2年度は特に新型コロナウイルス感染拡大に伴う実習期間や実習内容の変更や感染防止対策の徹底等の業務があり、臨機応変に対応した。

また、「実習合同委員会」「教育実習連絡協議会」は「教育実習専門部会」「教員養成等連絡協議会」に改正された。保育・教職支援室は庶務を掌ることとなっているが、令和2年度は開催されなかった。

- ・実習先オリエンテーションの指導及び日程確認
- ・実習先との連絡調整・書類準備
- ・令和3年度の実習依頼
- ・実習日誌や実習資料の印刷・配付
- ・実習後の日誌等の書類確認
- ・関係業者との打ち合わせ等

⑤ 子育て支援室の補助

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため開設できなかった。

⑥ 図書等の蔵書管理・貸出業務

保育・教職支援室に、公立の採用試験対策の参考書や問題集などを整備し、学生の自主的な学修場所として提供している。それらの図書の貸出業務や蔵書の管理を行う。また、4号館610教室を学生の採用試験にむけての自習室として開放し、その管理も行った。

3) 今後の課題

① インターンシップ制度とボランティア制度の導入について

学生の進路意識を高め、進路決定の一助とするためにも、保育所・幼稚園・小学校などでのインターンシップ制度やボランティア制度を活用し、学生への周知を図った。単位認定については検討を要する。

② 情報提供の早期化に向けて

3コース制になり、2年次で進路選択を明確にするようになる。その選択にむけての情報提供などを行うためには、2年次前期からの関わりが重要となる。

③ 保育・教職支援室の体制整備について

現在、保育・教職支援室のスタッフは、子ども教育学科の事務も兼任している。子ども教育学科の事務については、実習・就職・子育て支援室サポートなど多岐にわたる。一方、保育・教職支援室の業務としては、就職支援、免許状更新講習の申込、実施期間内の進行、事後の事務があり、年2回開講に伴う事務処理の増加もある。

子ども教育学科事務としての業務は、学部化に伴い増加することが予想される。就職関係事務・学科関係事務併せて免許更新講習にかかる事務に対応できるよう体制強化及び業務内容の検討をする必要がある。

4 学生支援センター

(1) 学生課

1) 学生指導・厚生、行事

学生の願いや実態を的確に把握するとともに、課題に丁寧且つ迅速に対応し、学生サービスに努めることで、学生の満足度向上を図った。

ア 通学バス

待ち時間の短縮や乗車できない学生の抑制に繋げるため、新たに45人乗りの中型バスを導入し、従来の小型バスと効率良く併用運行することで輸送力のアップを図った。

また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、登学の自粛や遠隔授業の導入等で授業の時間割が大きく変更になり、バスの運行も当初予想より大きく変更しなければならなかった。できる限り効率良くバスを運行させるため、頻繁に変更される授業や行事予定を勘案し、週毎に運行ダイヤの組換えや便の増減等を行った。

更に、新型コロナウイルス感染拡大の対策として、乗車時のマスク着用や、通気を良くするため窓を開けての運行を徹底した。

イ 駐車場管理

契約した学生に駐輪位置番号を記載した「駐車許可証」を発行し、交通安全や交通ルールを遵守するよう指導した。

ウ 課外活動（自治会、クラブ・サークル）の支援

〈自治会（学青会）活動の支援〉

新型コロナウイルス感染拡大により、5月に予定していた学青会総会開催や学青

会総務役員の正式決定が10月にずれ込み、10月に開催を予定していた大学祭が中止となった。

しかし、令和3年度の総務役員の改選や引き継ぎは、計画どおり遂行できた。また、中止になった大学祭に代わる新たな行事の実施を目指して、学青会を中心に学生自らが計画し立案することをサポートした。残念ながら新型コロナウイルス感染拡大防止を勘案して、実行するまでに至らなかったが、この経験を令和3年度の大学祭実行に活かせるよう指導していく。

〈クラブ・サークル活動の支援〉

新型コロナウイルス感染拡大により、特に室内で活動するクラブ・サークルは活動停止のやむなきに至った。そのため、計画していたクラブ・サークル部長会の開催や、リズム室、北摂体育館の貸出し等の支援活動は、ほとんどできずに終わった。

〈指定強化クラブ（女子ソフトボール部）の支援〉

屋外活動のクラブではあるが、クラブ活動の自粛や禁止が一定期間設けられたり、リーグ戦が中止されたりと、新型コロナウイルス禍の影響は避けられなかった。

そのため、当初計画通りの支援はできなかったが、練習や遠征のバスの手配や箕面駅前の清掃活動等の地域貢献活動の支援を実施した。

エ ロッカー室

学生指導の一環として、学生（看護学科以外）に個人用ロッカーを1年間貸与し、自己管理させた。

オ 食堂

計画どおり学生食堂の委託業者を変更し、業務形態をコンビニとの併用から食堂に特化することとし、調理方法やメニューの見直しも行った。また、食堂施設・設備のリニューアルも完成した。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止策の一環として食堂内の密集を避けるため、メニューをテイクアウト用のみに限定したり、食堂内のテーブルやイスを間引いたりしたため、新調した食器類や新しいメニューの一部が提供できず、食堂業者の変更及び食堂施設・設備のリニューアルの効果は、限定的なものになった。

かかる状況の中、食堂の情報発信を充実させるため、ホームページを見やすくして、日替わり定食のメニューを週毎に掲載し、食堂運営会社からのお得なお知らせ等を掲示した。

また、食堂内に設置された「デジタルサイネージ」（デジタル掲示板）にも、学内ニュースや食堂情報、バスの時刻表等の情報を提供した。

2) 心身の健康

ア 定期健康診断

より安心安全な検診がスムーズに受けられるよう、健康診断の委託業者（医療機関）を、（医）福慈会へ見直した。

例年は、4月初めに1日で終了する健康診断を、新型コロナウイルス感染拡大防止策の一環として検診時の密集を避けるため、4月4日、5月31日、6月7日の3回に分散して実施した。そのため、健康診断の証明書の発行可能日が例年より遅く

なったが、就職や臨地実習等で早目に診断書が必要になることが予め予想される学科や学年は、4月の検診日を割り当て、証明書を緊急に発行するなど柔軟に対応した。

また、異常が見受けられた学生には、本人への通知だけでなく保護者にも結果を連絡し、再検査の受診を促す等、学生の健康管理をサポートした。

イ 学生教育研究災害障害保険

正課中や課外活動中での怪我や事故、または通学途上での交通事故について、保険の対象範囲等保険制度の周知を、オリエンテーションや掲示物等を通じて、より一層図るとともに、安全指導にも努めた。令和2年度は、5人の学生が当保険の適応を受けた。

ウ 学生相談室

新型コロナウイルス感染拡大による休業期間を除き、基本的には毎週3回（火、水、木曜）11:00~17:30の間、学生相談室にカウンセラー（臨床心理士）を配し、学生の悩みの相談等に応じた。

また、新型コロナウイルス感染拡大のためリモート授業、レポート提出、外出自粛等、これまでに経験したことがないような困難な状況に直面し、それが原因で心身のバランスを保てなくなった学生に対し、担任・チューター教員、教務部等他部署や保健室等と連携して、できる限り学生支援を実施した。

さらに、学生との相談業務の一層の充実を図るため、面談時間の延長や面談日の増加といった、直接学生と面談する機会を増やす工夫をしたことに加え、新たにリモート面談や電話相談なども取入れた。

エ 保健室

新型コロナウイルス禍による休業期間を除き、基本的には月曜から金曜の8:45~17:30の間、保健師（看護師）が在室し、学生の怪我や急病等に対応した。

また、新型コロナウイルス拡散防止のためのマニュアルを、総務部や教務部と共働して作成し、ホームページや学内ネットワークシステム A ポータルで発信したり、「保健室だより」に掲載したりして学生や教職員に告知した。

さらに、発熱などの体調不良を訴えてきた場合は、マニュアルに従って迅速に対応した。

ほかに、新型コロナウイルス禍のため心身のバランスを保てなくなって相談に来室した学生については、学生相談室と連携してできる限りのサポートに努めた。

3) 学生の意見の聴取

ア 学生と学長との懇談会

令和2年11月9日に「学生と学長との懇談会」を実施し、学青会の学生6人が出席して学長が直接要望を聞く機会を持った。その場で提起された学生の要望や意見について、関係各部署で対応を協議することとしたが、希望が多かった「弁当温め用の電子レンジの設置」については、学生食堂へ2台の設置が実現した。

イ 学生生活意識・実態調査

隔年実施していた「学生生活意識・実態調査」を、教務部導入の新教学システ

ムを利用して令和2年度も実施することを計画していた。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、休業や遠隔授業が実施されたことを受けて、授業時間割や種々の行事予定が大きく変更された。本調査も実施予定がずれ込んだうえに、遠隔授業によるメールでの課題提出が学生にとっていつも以上の負担になっている状況を勘案すると、Aポータルによるメール回答求めても、多くの回答を得られないであろうことが予想されたため、令和2年度の調査の実施は見送ることとした。

令和3年度は、後期のオリエンテーション時に本調査のための時間を予め確保しておき、その時間に出席者全員に回答してもらうこととした。

4) 奨学金

学修や学生生活に真面目に積極的に取り組み、人物学力ともに優れた学生で、経済的に困難な状況にある学生を資金面で支援するため、奨学金の給付・貸与を実施した。

ア 日本学生支援機構奨学金

経済的理由により就学困難な学生、また家計が急変した学生に対し、きめ細かな配慮をもって、奨学金貸与及び給付の手続きの支援を行った。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、奨学金の申込期限の延長、景気悪化対策のための給付奨学金や応急採用奨学金の申込要件の変更、休業や分散授業の影響による集合形態での奨学金説明会の中止等、種々の予定外の事態が生じた。

そこで、ホームページに詳細な申込方法をアップしたり、電話やメールで説明したり、少人数の説明会を十数回実施したり、郵送で申込みを受付けたりしながら、少しでも多くの学生がスムーズに申込が完了するよう支援した。

また、本年新たに設けられた国の給付金「学生支援緊急給付金」についても、十数回に及ぶ説明会とホームページ上での説明を実施し、225名（支援額：10万円/1人 一部20万円の学生あり）の学生が支援を受けた。

この給付金の申込手続きを進める過程で、学生支援機構の給付奨学金の受給資格があると思われるにも関わらず、申込に至っていない学生に対し、給付奨学金の申込みを支援した。

イ 学内奨学金制度「修学特別支援金」

新しい学内奨学金制度「修学特別支援金」を作り、新型コロナウイルス感染拡大で疲弊する学生を経済的に支援した。これは、定められた年収条件に合致しなかったため給付奨学金の給付を受けられなかったが、経済的理由による就学困難な学生を対象とする本学独自の給付金で、103名（給付金：15万円/1人）への支援を実施した。

ウ 入学試験成績優秀者給付奨学金、塩川学修奨励金

入試部や各学科と連携し、成績・人物ともに優れている学生への適切な支給に努めた。

入学試験成績優秀者給付奨学金は、健康栄養学科4名、子ども教育学科3名、看

護学科 3 名、合計 10 名に支給された。

塩川学修奨励金は、健康栄養学科 9 名、子ども教育学科 10 名、看護学科 10 名、調理製菓学科 2 名 合計 31 名に支給された。

エ 同窓生家族入学金支援制度

入試部と連携し、対象者への適切な支給に努め、健康栄養学科 1 名、子ども教育学科 2 名、看護学科 2 名、合計 5 名に支給された。

5) 学生納付特例制度

本学が“国民年金の保険料の支払い”が猶予される、「学生納付特例制度」を周知し、5 人の申請代行を行った。

(2) 地域連携課

地元の大学として、これまで蓄積してきた高度な専門知識及び種々の知的財産を地域に公開し、地域社会における課題解決に取組み、地域社会が健康、教育、文化の面でより豊かになるよう、「公開講座」や「地域活動」等の地域連携事業に積極的に取り組むことを、事業計画としていた。

しかし、計画していた公開講座や市町村との連携事業が次々に中止に追い込まれるなど、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けてしまった。

かかる状況の中、地元公共団体等と共働して、下記のとおり公開講座や商品開発等の連携事業を実施した。

○ 公開講座（連携講座）

新型コロナウイルス感染拡大により、募集人数を限定しての開催になったが、参加者からは好評を博しました。

1) 『永井正幸 ピアノ・リサイタル』

連携先：箕面市（公財）メイプル文化財団

担当教員：永井 正幸 教授（子ども教育学科）

①実施日：令和 2 年 11 月 7 日（土）

場 所：箕面市立西南生涯学習センター ホール

受講者数：37 名（募集 40 名）

②実施日：令和 2 年 11 月 8 日（日）

場 所：箕面市立東生涯学習センター ホール

受講者数：76 名（募集 80 名）

③実施日：令和 2 年 11 月 29 日（日） 追加公演

場 所：箕面市立西南生涯学習センター ホール

受講者数：37 名（募集 40 名）

2) 『池田ゆかりの文人 牡丹花肖柏』

連携先：池田市中央公民館（池田市教育委員会）

担当教員：小倉 嘉夫 教授（子ども教育学科）

実施日：令和 2 年 11 月 25 日（水）

場 所：池田市中央公民館 ホール

受講者数：23名(募集30名)

3) 『たのしいこども実験室「色や光のちょっと不思議な実験」』

連携先：池田市中央公民館（池田市教育委員会）

担当教員：萩原 憲二 教授（子ども教育学科）

実施日：令和2年12月8日(水)

場 所：池田市中央公民館 ホール

受講者数：20名(募集25名)

○ 公開講座（講師派遣協力）

1) 『歴史文学を学ぶ「北摂の和歌」』

出講先：NPO 法人大阪府民カレッジ 池田校

担当教員：小倉 嘉夫 教授（子ども教育学科）

実施日：令和3年1月14日(木)

場 所：池田商工会議所 会議室

受講者数：18名

○ 地域活動

1) 新商品の開発

地元の公共団体や事業所等と連携して、学生や教員が取り組んだ下記のような新商品開発事業のサポートをした。

① 「だしぼん酢」の開発・販売

健康栄養学科の教員と学生が、姫路市の老舗出汁メーカーであるマエカワテイスト(株)や箕面商工会議所と連携して、箕面産のゆず(実生ゆず)を使ったぼん酢を開発した。

これは、学生が食品の“抗酸化作用”の研究をしている際に出来上がったもので、このぼん酢を「だしぼん酢」と命名して商品化し、千里阪急百貨店と連携して、同店の特販イベントである「千里マルシェ」にて令和2年11月21日(土)一般顧客に発売した。学生が特設会場で販売にあたり、120本用意した商品が10本を残すのみという好調な売行きで、引続き(令和3年3月31日現在)同店や川西阪急で販売されている。

なお、この商品開発・販売の取組みに対し、箕面市から「市長表彰」が授与された。

② 「ヴィクトリアサンドイッチケーキ」の開発・販売

健康栄養学科の教員と学生が、箕面商工会議所と連携して、箕面産のゆず(実生ゆず)を使ったケーキを開発した。

これは、学生が『配合の違いが嗜好性に与える影響について』という研究のため、本来ラズベリージャムを使うイギリス伝統菓子の“ヴィクトリアサンドイッチケーキ”を、箕面産のゆずを使ってアレンジ開発したものである。

新型コロナウイルス感染拡大のため、予定していたオープンキャンパスでのアンケート調査ができなかったが、地元箕面市の洋菓子店「グロス・オーフェン」の協力を得て、令和3年3月5日(金)に1日限定で同店舗にて発売するに至り、顧

客からの意見を聞くことができた。

学生が本学の製菓実習室で製造し販売にも従事したが、用意した 220 個は終了時間前に完売した。

2) ガンバ大阪との連携事業の実施

従前より継続して実施してきたスタジアム外周の特設テントでのイベントは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できなかった。

しかし、健康栄養学科の教員がガンバ大阪ユースチームの生徒を対象に、「食と栄養」に関する遠隔授業を実施できた。

これは令和 3 年度も継続して実施し、対象もジュニアユースの生徒や保護者等へも拡大していく計画である。

3) 体育館、博物館等の本学施設を使ったイベントの実施

①一の鳥居駅活性化のため「のせでんハイキング」への協力

実施日：令和 2 年 11 月 17 日(火)

主催者：能勢電鉄

内 容：能勢電鉄が主催するハイキングのゴール受付地として、北摂キャンパスの利用を提供した。300 人以上が参加したイベントで、少しでも一の鳥居駅の利用者を増やすことで、駅周辺の活性化を目指している地元自治会からも協力要請のある事業である。

②『「戦国武将の手紙」ミニ講座と展示見学』への協力

実施日：令和 3 年 3 月 23 日(火)

主催者：自然総研(株)

内 容：池田泉州銀行の自然総研(株)が主催する、本学の大阪青山歴史文学博物館を見学するイベントについて、主任学芸員による講義や展示解説等の協力をした。23 名の受講者(募集 24 名)であったが、今回のイベント情報が掲載されたガイドブックは 3 万人以上の会員に配布されており、多くの人に本学や博物館のことを知ってもらうことができた。

4) 市町村や団体との連携

①従前から取り組んでいる、女子ソフトボール部員による箕面駅周辺の清掃活動等のボランティア活動や、箕面消防本部学生消防隊「MATOY」の活動を引き続き支援した。

②従前から実施している“箕面市の給食材料の放射線量の測定”に、本学教が継続して協力した。

③教員が「箕面市生涯学習審議会委員」に、継続して就任した。

④理事長が「メイプル文化財団評議員」に、継続して就任した。

⑤職員が「メイプル文化財団企画運営委員」に、継続して就任した。

⑥教員が「池田市総合計画審議会委員」に就任した。

5 進路支援センター

(1)「一般企業、医療・福祉就職希望者の就職率 100%」目標について

就職内定の状況は下表の通りであり、大学の就職率は99.1%となった。うち進路支援センターが主に対応している健康栄養学科の内定率は98.2%、子ども教育学科の企業志望者の内定率は100%となった。健康栄養学科の未内定者1名に対しても、引続き状況確認を実施している。一方、短期大学部の就職率は97.0%となった。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、就職活動の開始が自粛明けの6月以降となった学生が多いなか、求人数の激変や早期での募集終了といった状況が見られた。その結果、複数社を受験しても内定に結び付くことが難しく、就職活動が長期に及んだ学生が多かった。初めての試みとして、学内選考会の実施、就活エージェントの登録会を行った結果、7名の内定に繋がった。看護師に関しても、求人数の激減から例年に比べて受験数を多く重ねる傾向が見られた。短期大学部においては業界的に求人が6割ほど減ったとも言われており、通年にわたり求人検索、学生への案内、学科との情報交換等を緊密に行った。今後も状況に応じて、早期の対応を心掛けるとともに、学科との情報共有を行いながら丁寧な対応を続けていく方針である。

◇大学内定状況（令和3年4月20日時点）

（人）

健康科学部	健康栄養学科	子ども教育学科				看護学科	大学合計
		子ども教育学科計	内訳				
			公立	私立	企業		
在籍者数	62	90				81	233
就職希望者数	56	79	16	37	26	77	212
内定者数	55	79	16	37	26	77	211
内定率	98.2%	100%	100%	100%	100%	100%	99.5%
前年度同月就職率	98.6%	98.6%	95.7%	100%	100%	97.2%	98.1%

[在籍者数と就職希望者数の差]

- ・健康栄養学科 6名（留年6）
- ・子ども教育学科 11名（進学2、卒業延期1、留年5、科目履修1、その他2）
- ・看護学科 4名（進学1、助産師2、休学1）

◇短期大学内定状況（令和3年4月20日時点）

（人）

調理製菓学科	調理コース	製菓コース	短大合計
在籍者数	18	16	34
就職希望者数	17	16	33
内定者数	16	16	32
内定率	94.1%	100%	97.0%
前年同月就職率	100%	100%	97.9%

[在籍者数と就職希望者数の差]

調理コース 1名(留年1)

(2) 目標達成のための施策

①企業との関係強化

a) 学内企業説明会を7回行い、既存企業及び新規企業22社の招聘を行った。企業説明会実施後は求人案件に関して情報収集を行い、12名の学生内定に結び付いた。学生の希望する業種の求人検索を行い、新規企業へ求人電話開拓を行った。また、職員、学科教員からの紹介求人も含め、新規求人企業からの内定者は19名となった。

b) アオキャリ(就職支援システム)の活用

健康栄養学科と短期大学部調理製菓学科の活用であったが、新たに令和2年度から看護学科学生の登録が決まった。子ども教育学科に関しては調整中であるが、再度案内を行い、学科問わず全員が活用できるようにしたい。

延べ求人数は20,116件、学生アクセス数は6,763件であった。

②進路支援

a) 個別相談

キャリアコンサルタント4名(外部委託3名、職員1名)による学生相談、受験対策(面接練習、書類添削)を年間合計2,499件行った。

b) 学内外就職支援セミナーの実施(別紙参照)

ア) 学内企業説明会を7回実施した。

イ) 卒業生による「OB・OG講演」を実施した

ウ) 外部講師セミナーとキャリアコンサルタントによる学内セミナーを各学科の要望に沿って企画、提案し23回実施した。

エ) ランチセミナーではなく別時間で1社限定説明会・選考会を3回行った。

オ) 他大学との合同セミナーはコロナ禍で中止となった。

その他)

対面予定の8社合同企業説明会を、コロナ禍の影響で実施が難しくなったため、急遽オンラインでの説明会に切替えた。企業連絡や学生周知を短期間で行い、無事開催することができた。今後も状況下に応じた迅速な対応を行う。

c) インターンシップ

ア) 健康栄養学科2・3年次生対象に企業インターンシップ(1DAY、2DAYS)について情報提供、及び参加の必要性を外部講師セミナーとオリエンテーションで推奨した結果27.4%の学生が参加した。

イ) 企業人事担当者との面談でインターンシップの情報を収集し学生に掲示、案内した。

ウ) 他大学学内インターンシップは開催されなかった。

d) 「アオキャリ」キャリア支援(求人検索システム)クラウドサービス

ア) アオキャリの活用

- ・求人データの一元化を図り、郵便で届いた求人票も即日アオキャリに反映させ学生に情報提供を行った。
- ・トピックスにセミナー情報を更新し参加を促した。

イ) 既卒生の就職実績や就職受験報告書を企業データに反映させた。

e) 既卒者支援

ア) ~イ) 大学ホームページに既卒生支援の案内を掲載し、求人問い合わせにはアオキャリや他の検索方法の案内を行い、来学相談者には応募書類添削の支援や現状のカウンセリングを 26 回行った。

ウ) 各学科教員からの既卒求人情報をまとめ、学科教員にメールで配信し、就職を希望する既卒者に対して求人案内の支援を行った。

③学内連携

a) 各学科との就職連絡会（月 1 回定期開催）

- ・毎月 1 回、各学科の就職学年担任と学生の進路について現状の情報交換を行い、個別の就職支援方法を確認した。必要に応じて回数を増やし、状況の把握と支援方法を協議した。

b) 事務連絡会議（定期開催）

- ・毎月 1 回、進路支援センターの状況や活動を報告し、各部署事務担当者との情報交換を行った。

(3) 自己点検・評価報告

①キャリア支援整備

「(2)目標達成のための施策」に準ずる。

②アンケート（対象学科：健康栄養学科、子ども教育学科、調理製菓学科）

ア) 就職先企業・事業所アンケート

卒業生採用実績企業 225 社を対象とし業務評価等内容のアンケートを送付し、90 社から回答を得た。（回答率：40.0%）

各事業所での本学卒業生の勤務状況についての質問項目に回答頂いた。求める人物像と実際の卒業生評価とのズレがあり、今後の学生支援内容構築の参考としたい。

イ) 卒業生アンケート

過去 3 年卒業生 327 名にメールにてアンケートを送信した。うち 70 名の回答があった。（回答率 21.4%）1 年未満の早期退職が 15.0%、2 年未満が 22.0%となった。要因は人間関係が多くその次に賃金・待遇、福利厚生が理由となっている。離職率の高い企業、業種の分析や、コミュニケーション力の強化を行うなどの対策を講じたい。また、役立つと回答のあったセミナーを基に今後の就職支援セミナーの構築に活かしたい。

6 入試部

(1) 令和3年度入試結果（総括）

令和3年度入試の結果について、大学の学部全体及び学科別入学定員に対する入学定員充足率は、学部全体では0.82倍（前年1.06倍）であった。各学科の入学定員充足率は健康栄養学科の0.65倍（前年0.98倍）、子ども教育学科は0.74倍（前年1.05倍）、看護学科では1.10倍（前年1.16倍）となり、全学科で前年を下回る結果となった。

学部全体の入学定員に対する実質志願倍率は2.05倍と令和元年度より0.22ポイント下降し、総志願者数は492名（前年545名：奨学金チャレンジ志願者除く）であった。

次に入試区分別・学部全体志願者の動向では、総合型選抜・学校推薦型選抜（指定校、スポーツ含む）を合わせて61.2%（前年58.9%）、一般選抜（社会人入試を含む）から志願者の割合は38.8%（前年41.1%）となり、令和元年度以上に年内入試の志願率が上昇している。これは、1学期の休校期間を経て、進路選択に時間をかけられなかった高校生が、情報の乏しいまま進路決定をしなければならない環境に置かれたため、安全志向が働き、年内受験に傾いた結果と考えられる。

地域別志願者の動向では、近畿2府4県からの志願者は465名となり、前年の477名より12名減少した。ちなみに京都府・大阪府・兵庫県からの志願者は450名と前年の457名から7名の減少に止まり、近隣地域への広報戦略の効果が出たものと思われる。

一方、近畿以外からの志願者は27名と、前年の68名を下回る結果となり、社会情勢に影響を受ける結果となった。

(2) 令和3年度入試の学生募集活動報告

令和2年度は質と倍率の向上を目指し学生募集活動を行ってきたが、突発的な情勢の変化により方針転換を図った。

① 入試制度改革の概要

文部科学省の入試制度改革方針に沿って、該当する入試で名称・実施時期を改めた。

ア 総合型選抜（面談型）

A0入試を名称変更した。

イ 総合型選抜（学力型・音楽[ピアノ]型）

文部科学省より、学校推薦型選抜の出願開始が11月1日以降とされたので、日程の空白を埋める措置として、昨年までの公募制推薦A日程に極めて近い制度を設定した。

学力型は、エントリーシートを課したが、選考方法は昨年の公募制推薦A日程と同じ、学力試験1科目、面接、調査書に設定した。

音楽[ピアノ]型は、エントリーシート、ピアノ実技（面接を含む）、小論文、調査書を課した。

ウ 学校推薦型選抜（公募制）

出願開始が11月1日になったので、2回の設定になった。

エ 学校推薦型選抜（指定校制）

出願開始が11月1日になったので、入試実施日も11月下旬とした。

オ 一般選抜

A日程の1科目試験（選択可）を廃止し、全学科で2科目試験とした。

② 広告媒体は、昨年に引き続いて予算削減方針が打ち出されたため、広告の出稿を減らした。また③で後述するイベントの中止により全体の資料請求者数は1.2%減少したが、高校3年生や既卒者の受験該当学年に限った学科ごとの増減は、健康栄養学科は3.0%減少、子ども教育学科は6.0%増加、看護学科は3.0%増加となった。また全学年の資料請求者では、健康栄養学科9.5%減、子ども教育学科5.2%減、看護学科0.2%増であった。

③ オープンキャンパスは9月までの通常版を合計9回の実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大により3・4・5月と8月の1回目が実施できず、5回の実施に止まった。また参加できる人数を制限し（各学科20名まで、午前・午後2回実施）、事前申込制にした影響で、前年比51.5%減少と半減した。学科ごとの内訳は、健康栄養学科は61.0%減少、子ども教育学科は51.7%減少、看護学科は43.3%減少となり、健康栄養学科と子ども教育学科ではオープンキャンパス参加者数と出願者数に相関関係がみられたが、看護学科では逆に出願者が4%増加した。

案内告知は、6月までの対面活動ができず、高校への案内送付、個人には本学公式サイトや各種ウェブ広告、受験雑誌、ウェブガイダンス時の対面広報とダイレクトメールなどとともに、公式サイトでの申込みフォーム掲出、リピーター特典（AOCAカード）の告知、リ・ターゲティング広告とジオ・ターゲティング広告の出稿などを引き続き行った。

④ 高校訪問は、年間を通じた延べ訪問数は前年より8.7%増加した。7月以降に、例年以上に訪問回数を増やしたのが増加につながった。

また、高校内進学ガイダンスへの参画は30%減少し、会場型進学ガイダンスへの参画も41.9%減少した。3月からの休校措置とそれに伴う行事日程変更により、6月下旬まで、すべての進学ガイダンスが中止となったが、再開後は例年より案内も多く、本学も積極的に参加した結果、2年生以下の生徒とはある程度接触することができたと考えている。

(3) 広報活動に関する取組み

① リニューアルした大学公式サイトでの完成とユーザビリティ向上。

② ウェブ広告の導入。本学公式サイト、関連する記事や語句等への閲覧者に訴求するリ・ターゲティング広告や、高校所在地等への訪問者に訴求するジオ・ターゲティング広告を利用し、オープンキャンパス動員増や一般入試出願促進を図った。ウェブを介した来場者は増えたが、単年では効果測定が困難なため、継続して取組みたい。

- ③ 高校訪問・進学ガイダンスの合間に学習塾・個別指導塾への訪問をおこなった。未だ試行程度の訪問数であるが、大手個別塾の本部を訪問し、当塾出身の本学受験者リストを入手する等の成果をあげた。教室訪問も含め、令和3年度もさらに訪問件数を増やし本格稼働させたい。
- ④ 資料請求者や高校へ直接届くダイレクトメールやFAXを、年間を通じ有機的に連動させる展開をおこなった。ほぼ年間を通じて実施するオープンキャンパスと出願期間に的を絞った出願促進を、タイミングを重視して送り続け、一定の成果をあげた。オープンキャンパスや高校訪問が実施できない事態が起きても、高校生と高校進路指導部へ定期的に情報を届けることができる有効な手段と考える。

viii 青山幼稚園

- (1) 令和2年度の園児数と学級編成（令和2年5月1日現在）

年長組 6クラス 150名

年中組 5クラス 116名

年少組 5クラス 92名

16クラス：358名

- (2) 令和2年度に実施した行事

4月 第56回入園式（新型コロナウイルス感染拡大のため休園）

5月（新型コロナウイルス感染拡大のため休園）

6月（分散登園・6月下旬より一斉登園開始）

7月 七夕まつり・個人懇談会・水遊び

8月 第2学期始業式・星まつり

9月 入園説明会・園児募集・避難訓練・内科検診・歯科検診

保育参観・令和元年度同園会（宿泊保育→SpecialDayに変更で実施）

10月 令和3年度園児募集受付開始・入園検定・園外保育（栗拾い、芋掘り）
運動会

11月 園外保育・避難訓練・七五三

12月 生活発表会・クリスマス会・終業式

1月 避難訓練・保育参観

2月 豆まき・絵画制作展・個人懇談会

3月 ひな祭り・全園児お別れ会・お別れ会・第56回卒園式・修了式

※学期ごとに終業式、始業式実施

※月ごとに「お誕生会」実施

- (3) 給食調理室改築及び給食業者の変更

1) 給食室の改築に伴い業者及び給食内容を変更した。

2) 給食の見直しによる食育の取組みを進めた。

- (4) 環境整備

1) 園内の樹木の剪定、整備、花壇の整備と季節を彩る花を栽培し、季節感に溢れた園内に努め、園児が豊かな自然に触れあえる環境作りを進めた。

2) 既存施設設備等の安全・点検に努めた。

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策として

各保育室に空気清浄機を購入し、必要箇所に消毒液を配置、マスクの常備、食事等で使用する衝立を準備し、園児・保護者・教職員の感染抑制に努めた。

(5) 教員組織の資質向上と充実

1) 教職員の組織作りの見直しを図った。

2) 各種団体主催の研修会は新型コロナウイルス感染拡大のため実施がほとんどなかったが、引続き外部講師による音楽の教員実技研修会を実施した。

3) 教職員の採用、確保（特に大阪青山大学）を大学と連携し、積極的に推進するとともに、年少組や配慮を要する幼児への補助教員の配置、保育の充実を図った。

4) 年間研修計画に基づき、研究保育を実施するに至らなかった。

5) 大阪青山大学の教職員との連携を進め、保育・教育の充実、教員の指導力の向上に努め子ども教育学科の教育実習と看護学科の実習に協力した。食育の観点において健康栄養学科とも連携を進めた。

(6) 園児サービスの向上、保護者との連携の推進

1) ホームページや園だより、クラス便り等を活用し、日々の保育・教育、行事等の様子等を積極的に発信し、保育、教育への理解を図り、保護者、後援育友会と連携、協力し、充実した活動を進めた。

2) 園行事の評価・改善、充実に努め、後援育友会との連携を積極的に進めた。

3) 通園バスのコース、便数、時間などを踏まえより安全で便利な送迎に努めた。

4) 火災、地震、バス事故などを想定した避難訓練を実施し、安全管理に努めた。

5) 開園時や長期休業中の預かり保育を実施し充実を図った。

6) 未就園児教室「青葉の会」の園児が年少組へスムーズに入園できるよう保育の一層の充実と入園のための情報提供や説明に努めた。

7) 平成 30 年度より開始した英語教育の充実を図る。ネイティブスピーカー講師は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できず。令和 3 年度は月 1 回を予定している。

(7) 地域との交流推進

1) 近隣地区、近隣小中学校との連携を図った。

2) 中学校職業体験学習は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できなかった。

3) 地域運動会等の地域行事は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できなかった。

(8) 令和 3 年度の園児募集

入園説明会、体験入園や入園案内パンフレット等で、本園の保育理念、特色ある活動等を丁寧に紹介、PRするとともにホームページのブログで日々の保育や行事における園児の様子や活動内容を積極的に紹介し、園児募集に努めたが、88名と100名を大幅に下回った。

(9) その他

全日本私立幼稚園連盟・大阪府私立幼稚園連盟・三島地区私立幼稚園連盟・吹田市私立幼稚園園長会などの構成員として参加、協力した。